

「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成 17 年 12 月 25 日



眞 田 氏 歴 史 館

…… 透明感漂うふるさとの晩秋風景 ……

写真撮影：武捨 衛人

NO.

18

ふるさとのたたずまい・1

写真撮影：編集部 武捨 衛人



“唐沢の滝”
（菅平高原）



“初雪ヤーイ”
初冬の菅平高原



“あすまや高原ホテル”



新装の“猿飛橋”



“ふるさとの川” 和熊橋から
下大日向方面を望む



高原の初冬
“ナナカマドとしらかば”



我が目を疑う
“合併記念樹”



“湯の平の導水管”
（横沢く大日向）

会長挨拶



今年もあと僅かと成りました。会員の皆様・真田町民の皆様には益々ご清栄の事とお喜び申し上げます。会員の皆様には日頃より会の運営・活動に付きまして、深いご理解と格別なるご協力を賜っており厚く御礼申し上げます。また真田町ご当局にはご支援ご指導を頂き大変感謝しております。

今年も去る6月12日昨年と同じアルカディア市ケ谷に於いて、第18回定期総会および懇親会を開催致しましたところ、懐かしい会員の方々百余名のご出席を頂きました。そしてふるさと真田町からは箱山町長さん・三井議会議長さんを始め多くの皆様方が、公私ご多忙の中をご出席頂きありがとうございました。総会の後懇親会に移り、歌手・箱山リサさんの歌、会員の皆様のかくし芸等があり、最後は輪踊りで盛り上がりました。皆様のご協力に感謝いたします。

6月26日菅平原高原CCで開催さ

挨拶

会長 塩沢和政

れた真田町民ゴルフ大会には会員有志7名が参加し、8月6日の真田祭り花火大会には私が出席して親交を深めました。

来年3月6日には真田町・上田市・丸子町・武石村が合併して新生上田市が誕生すると聞いております。東京真田町の会の今後の運営に就いても、会員の皆様のご希望を中心に、新生上田市当局のご意向も伺いながら、検討を進める必要があると考えております。

さて我が国も戦後60年たちました。今後の問題として、少子化問題・高齢化社会問題・それと「2007年問題」等があります。07年は、「団塊の世代」第1期生が60歳を迎える年で、大量の定年退職者が出ると言われています。蛇足ですが一般に「団塊の世代」とは1947年から49年に生まれた人達を言い、命名は堺屋太一氏です。

今年も地震・台風・鉄道事故等いろいろな災害がありました。お互いに災害には気をつけましょう。

終わりになりましたが東京真田町の会並びに新生上田市の発展と皆様のご健勝を祈念して私の挨拶と致します。良いお年をお迎え下さい。

合併して発展し続ける郷土真田地域



東京真田町の会々員の皆様に、日頃からご支援をいただいた真田町は、来年3月6日に新設対等により上田市と丸子町、武石村の4市町村が合併して、新生「上田市」となります。

この合併は、8月12日に総務省から告示がされたことから、正式に決定いたしました。新市の面積は552平方キロと現真田町の3倍、人口は16万6000人で14倍、一般会計の当初予算規模は600億円、12倍になります。

私をはじめ4市町村長は、急激に進む少子高齢化、厳しい財政状況、地方分権社会への潮流といった社会経済情勢の中で、人材の専門性や資質を高めて、財政基盤の強化をし、自らの力で自立的、持続的な発展を目指すことのできる自治体づくりとの信念と価値観を共有して、合併へと牽引してまいりました。そしてこのことは、将来にわたり安全な、そして安心して住民の皆さんが暮らすことのできる方法・選

真田町長 箱山好猷

択肢だと確信しているところであります。

合併にあたっては、住民生活に大きな変化をもたらすことなく、この真田地域の歴史的発展の経過を踏まえ、その特性を最大限に発揮し、いきいきとした地域を築きながら新市全体の発展を図る「分権型合併」を目指しています。そのため新たな仕組みとして「地域自治センター」構想が提唱され、住民と行政が協働してまちづくりを行う住民自治を推進することとしています。

地域自治センター構想とは、現在の真田町を一つの区域とし、現役場の庁舎を地域自治センターとします。そして地域自治センターでは、現在の町で行っている住民に身近な仕事のほとんどを行い、地域振興や地域課題に対応する業務を行います。生涯学習（公民館活動等）や地域福祉などの住民に必要な施設も配置します。さらに地域内の課題や要望を話し合い行政に反映させたり、市長の諮問に対して意見をいったりする地域住民20人ほどにより構成されます地域協議会を置き、住民と共にまちづくりを行います。また、住民自治の推進やコミュニティ活動の拠り所となる施設を設け、その支援及び育

成を行っていきます。このことによつて地域住民のみなさんには、不安なく新市に移行できるものと思われ

ます。
また、新市になっての住所表示であります。7月の住民アンケートによりまして、新市の名称である上田市の後に「真田町」をつけることが決定しました。この結果新しい住所表示は、上田市真田町 長・傍陽・本原となります。なお、菅平地区と大洞地区については、上田市菅平高原と表示されることになりました。

次に、東京真田町の会の今後の方向性については、合併時は現行のとおりとし、合併して3年後を目途に、他の3市町村の会と融和を図りながら建設的で発展的な会としていただくことが協議されております。

これまでの会員の皆様からのご厚情やご支援を忘れることなく、真田町の伝統、文化や豊かな自然をしっかりと新市に引き継いで、地域住民の安住の地を守ってまいりたいと思

います。今後、会員の皆様にもますますの期待と誇りをお持ちになり、見守っていただきたいと思います。
最後になりましたが、東京真田町の会の益々のご発展と、皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げ、ごあいさついたします。



ふるさと真田町の発展をめざして



真田町議会議長 三井博文

真田町議長に昨年選出されて以来早くも1年が経過いたします。その間、町民の皆様はじめ、議員諸氏、行政の方々にご協力をいただき、その任にあたっております。

過日、東京真田町の会及び懇親会にお招きいただき、誠にありがとうございました。盛会に開催されましたことに心よりお祝い申し上げます。

さて、真田町もご案内のとおり、昭和33年10月1日に長村、傍陽村、本原村の3村が合併し、真田町となり47年が経過いたしますが、時の流れと申しますか、近年は、全国的に少子高齢化が進み、国・地方の債務残高が1千兆円に手が届く状態であります。国・地方の補助金交付等がなければ、当然財政力の弱い自治体においては、厳しい状況になることは避けて通れません。

当真田町におきましては、平成13年5月から上田地域広域連合地方分権研究会合併問題部会に参加、6月

には議会において「合併問題研究会」を設置、9月には「21世紀の真田町を考える講演会」の開催、また、10月から翌年4月にわたり、町内36会場にて合併地区懇談会を開催し、平成14年8月6日には臨時議会にて「市町村合併に関する推進決議」を採択しました。そして、平成17年2月18日、上田市・丸子町・真田町・武石村4市町村における合併協定書の調印をしました。

この間、合併に慎重・推進の方各3名による「合併公開討論会」の開催、「真田町の合併についての意思を問う住民投票」が執行されるなど、紆余曲折しましたが、いよいよ真田町は平成18年3月6日に新生上田市となります。

合併後は、人口16万6千人、面積552平方キロメートル、世帯数約6万4千戸と、県下では長野市、松本市に続く3番目の市となります。東京真田町の会の皆様におかれましては、艱難辛苦を乗り越え、堂々と生活の根柢を構えて居られる方々とお会いする度に、心から敬意を表するものであります。

会場に出席された皆様お一人おひとりから、故郷に寄せる熱い思いを

お聞きする度に、故郷真田町を守る私達の責任の重さを強く感じて帰って参りました。

議会と行政が両輪となって「新生上田市の発展は真田町から」の意を強く持ち、皆様のふるさと真田町が誇れる町となるよう、精一杯努力して参ります。

今後共、東京真田町の会の皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

結びにあたり、東京真田町の会の益々のご発展と会員の皆様方お一人おひとりのご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。ご挨拶いたします。

高野山蓮華定院

と信濃

蓮華定院住職

添田 隆昭

ありがたや 高野の山の岩陰に大師はいまだおわしますなる

と謳われてきたように、弘法大師空海によつて開かれた高野山は、大師が生きたまま山の東端奥の院の地下

石窟に座禅を続けている(入定留身、

という信仰に支えられて千年の宗教的命脈を保ってきた。

一方、日本人は、祖先の霊は聖な

る山に集まるといふ觀念と、死者の魂は遺骨に寄り添うといふ思いも持ち続けてきた。従つて、高野山奥の院に分骨を納めておけば、死後の自分の靈魂はその遺骨に寄り添つて、弘法大師に見とられながら千年の安らぎを保つことができると思はれた。

死後が不安であるなら、生前、自分の手で、遺骨の代わりに髪、爪、齒を収め、墓碑も予め建てておく、逆修塔といふことも盛行した。特に戦国時代を生きた武将にとつて、この思いは切実であつた。

明日をも知れぬ身の戦国武将にとつて、自らの領内の菩提寺はいづ敵兵の蹂躪する所になるかも知れず、保元・平治の乱以後、世俗権力の介入を拒んできた靈域高野山に菩提寺を持ちたいといふ希求は強かつたと思われる。

やがて信州は武田信玄の領有する所となり、真田幸隆がその属將として活躍した。幸隆は海野棟綱の子、もしくは娘婿と考えられており、その智謀を以つて信玄を扶けたが、家督を継ぐべき長男・次男は長篠の戦いで戦死してしまつた。そこで信玄の母方の武藤家の養子となり喜兵衛を名乗つていた三男に真田家の家督を託した。昌幸公である。

天目山の合戦で武田勝頼が自害する二年前、天正八年(一五八〇)

三月、依田信蕃、望月信豊、望月印月齋等が相次いで宿坊契約を交し、昌幸公もこれに倣つた。近接した日付からして高野山から僧が派遣されたものと考えられるが、主家の黄昏を家臣たちも予感していたのかも知れない。因みに、武田家滅亡後、依田信蕃は徳川方に与し、昌幸公は上杉景勝を頼み、徳川方の上田侵攻(神川合戦)を招いた。真田方の完勝に終つたこの戦の後、家康は自らの四天王といわれた家臣の内、本多忠勝の娘を養女とし、真田家の長男信幸公の元に嫁せしめ信幸公も駿府に出仕し、家康に臣従することとなつた。

又秀吉の元に属従した二男信繁(幸村)公は、石田三成の同僚大谷吉継の娘と結婚し、来るべき親子兄弟相別れての合戦への伏線が徐々に形成された。

太閤秀吉亡き後、天下騒然とした中で家康は会津の上杉景勝討伐の軍を起し真田家もこれに従つたが、石田三成が大阪で挙兵し、真田家へも密使が差し向けられた。真田家は昌幸公と幸村公は西軍に、信幸公は東軍に帰すべきことが決せられ、昌幸・幸村両公は上田城に立て籠もつた。二代將軍秀忠は、三万八千騎の全旗本を託され中仙道を西下したが、途中第二次の上田合戦で時間を浪費し、又、真田方の奇襲を恐れて迂回路を取り、遂に関が原の戦には間に

合わなかつた。加藤清正や福島正則等の豊臣恩顧の將と共に天下分け目の戦いを戦わざるを得なかつた家康にとつて遅参した秀忠への怒りは大きく、面会を許さなかつた。面目を失つた秀忠は真田父子の首を刎ねよと厳命したが、長男信幸公の必死の助命嘆願により、罪一等を減ぜられ、高野山への蟄居が命ぜられた。

高野山は保元・平治の乱以降、政争で敗れた者の隠遁場所であり、余生を仏道修行に過ごすことを前提として、勝者も黙認してきた。高野山行きを命ぜられた昌幸公は、祖先以来縁故のある蓮華定院を頼ることとなつた。慶長五年(一六〇〇)十二月十三日のことである。

蓮華定院では、おそらく二十名にはなつたであろう昌幸・幸村主従のために山麓の九度山に家宅を用意した。高野山は、平安時代以降、紀ノ川流域に広大な莊園を所有し、その管理を行つたのが九度山慈尊院の政所であつた。紀ノ川に面した九度山は当時、物資と情報集散地であり、九度山に居ても高野山で身柄を保証してもらつてゐるという建前には反しなかつた。

昌幸公はすぐにも赦免があるを期待してゐたようであるが、九年後、慶長十四年九度山の地で没せられた。蓮華定院には、自身で用意された位牌、「二翁千雪居士 寿位」が残されている。昌幸公の供養塔のある場所

は現在善名称院(真田庵)となり、毎年五月五日には真田祭が行われ、十勇士に扮した子供達のお練り行列で賑わう。

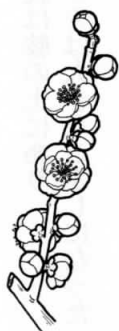
残された幸村公の九度山での生活はかなり質素なものであつたと思われ、焼酎を所望する河原左京宛の手紙が当院に寄進されている。やがて大阪冬の陣が勃発せんとして大阪方の勧誘を受け、幸村公は九度山を脱出し大阪城に入城し、元和元年(一六二五)夏の陣にて戦死された。

信幸公は父に由来する幸の字を之に改め、元和八年(一六二二)上田から松代へ移られ、上田城には仙石忠政が入ることとなつた。寛永一六年(一六三九)信之公からも宿坊の契約を賜り、以後、当主が交代する毎に、高野山から使者が伺候し契約の更改が行われた。

江戸末の火災によつて焼失した当院の再建にも信州の皆さんの援助を賜つたが、本堂は小泉一郡で、庫裡と山門は他の郡の助力によると伝えられている。因みに万延元年(一八六〇)現在の堂宇が完成した。

蓮華定院も信濃からはるか離れた地で信濃の歴史と共に生きてきたのである。

(編集の都合で一部割愛させて頂きました)



父母のファンタジー

―戦後六十年の

節目に寄せて―

理事 堀内 幸
(下横道出身)



私の両親はすでに亡くなっていますが、傍陽の田圃や山畑を耕しながら、子ども達五人、正確に言いますと早世した娘がもう一人いますので六人を必死で育ててくれました。

昭和二十年八月十五日、日本が太平洋戦争に敗れ、連合国側に無条件降伏をした日です。お昼に重大な放送があるという事は知らされていませんでしたが、貧乏農家の私の家にはラジオがありませんでした。長兄が近所の家のラジオで天皇陛下(昭和天皇)の玉音放送を聞いてきて、無条件降伏の事実を両親は知ったと聞いています。当時、私の家では「かいこ(夏蚕を飼っていました。リヤカーを牽いてかいこの桑切りにいく両親をみた人たちの中には、「あの家のし

よう(衆)は日本が戦争に負けたというのに、桑なんか切りに行く」と非難のことは発するひともあったそうです。両親は「国破れて山河ありだ。かいこにも桑をやらなくちゃいけないし、子ども達にも腹一杯食べさせてやらねえ」と聞こえない振りをしていた。山の桑畑に向かったものだ。と後年、成人した私に母が語ってくれました。この話はきつと姉や兄・弟も聞いたことと思います。

時が流れ実家に帰った折に、父母に「今自分は二人の子どもに手をやいているが、おやじさんやおふくろさんには、たくさん子どもをそれぞれがそれなりになるように育ててもらった。本当にたいしたものだと思う。ご苦労だったね、ところで子育ての秘訣は何だい?」と問いかけてました。すると父は、「そんなものは何もねえ。唯々、生きるために働いて、飯を食わせてきただけだ」と言つて母と顔を見合わせて笑っていました。続けて母が、「いろいろあったが、いい子どもたちに恵まれて良かったと思つている。亡くなった子を忘れるのに何年もかかってしまった。お墓に行く度に、生きている間は来るからなと声をかけている」と語ってくれました。父母の心の中には三才で亡くなった娘が、ずっと生き続けているのだということを改めて知りました。余談になりますが、この姉が亡くなった六年後に、弟が生ま

れました。弟は幼いころ自分の誕生日を忘れるとお仏壇の姉のお位牌を見て確かめていたのを思い出します。父母が亡くなり実家に帰省する回数に減りましたが、墓参りにいきますと父母を始め先祖代々の墓に合唱した後、小さな墓石の下に眠っている姉にもお線香を上げています。姉や兄・弟も同じようにしています。

先年、といつても大分前になりましたが長兄が作った詩「亡き父のこと」に曲をつけ、「おらあ家のレクイエム」と題する歌として上田グロリア合唱団の皆さんに歌っていただきました。「レクイエム」というのは、日本語に訳すと「鎮魂歌」、つまり亡くなった人の魂を鎮めるための歌なのです。一寸、その詩を紹介します。

亡き父のこと 堀内 守(作)

父よ

あなたの骨は太かった
その手で鋤を握り 土を耕し
稲を植え 薪を束ね 子を抱き
指を鳴らしたり 狐の形を作つて
手品もやつてみせてくれた
その太い腕で 家族を支え
器用な指で縄をない 草履も編み
父らしき字を書き 手拍子を打ち
遠くの方を指さし 暮も打った

機嫌のよい時

その腕は膝の上にあり
怒るときは大きなこぶしになった

父の手の形

それは私の手にそっくりだ

「守や、学校に行ったらな、大きな声で返事しろや。きよろきよろせずに、先生の顔を見つめているもんだ。」

ホラ、ここが下駄箱だ。自分の名前が分かるかや。ここで上履きに履き替えてさ。ホラ、つまずくな。

机は前から三番目。カバンは椅子に掛けとけよ。黒板。でつかいな。家のやつ何倍もあるぞ。

お、西木屋のター坊もいる。
トシ坊は隣の組かや。
さ、先生が来る。

うしろに立っているからな。
どうだったや。くたびれたか。
うんそうか。

明日からこの道かようだど。」

戦後六十年の節目に寄せて、頭に思い浮かぶことを書き連ねてまいりました。戦中世代の一人として、「平和」の大切さや「家族」のあり方について子や孫たちに、語り伝えていきたいと思っています。

文末ではありますが、会員の皆様

方の益々の御健康と御発展をお祈り
申し上げ擲筆させていただきます。

50 年前

真田町区長会長

清水 潤



50年前、長・傍陽・本原の各中学は昭和30年度卒業生を送り出して、その歴史に幕を閉じ真田中学に統合された。3年後に3村は合併し真田町になった。私は、その昭和30年度卒業生の一人である。今年、真田中学は、創立50周年を迎え、来年真田町は上田市になる。

この節目の年に、東京真田町の会総会に、真田町から出席する機会を頂いた。かつて隣所に住まわれていた方、中学や高校の同窓、運動部OB、同業種で働く方等の懐かしい皆さんにお会いでき、楽しいひとときを過ごさせて頂いた。特に、私が出席するだろうと、わざわざ参加してくれた同級生とは、隣合わせの席を用意頂き、感謝であった。

自然、話題は、50年前に遡る。給食で飲んだ粉ミルク、学校の行き帰りに摘まんで食べた胡桃や桑の実、夏休みに河原での水泳の途中で失敬したトマトや叩き茄子の味、当時の田舎の生活を語ると、全国何処にでもあった風景が、真田町にもあり、その中で育ったことが、改めて思い出された。農繁休みがあり、代掻きの牛の鼻取りは子供の仕事であったし、蚕の「ひき拾い」も親にあてにされた仕事であった。舗装がしてない坂道を喘ぎ喘ぎゆつくりと走るトラックに追いつき、後ろの荷台にしがみついていたの、いつときのドライブも楽しい遊びであった。

学校のスポーツ活動も、春先から男子は野球、女子は排球、秋には全員が運動会や陸上競技大会に備えた野球大会は豊殿・神科を加えた「己組」の大会が目標となった。当時、野球は長、排球は本原が強かった。ここで活躍した野球選手は、30年振りに甲子園出場を果たし、甲子園でベスト8になった高校の主力メンバーにもなった。排球も近隣に敵なしで、長野市の柳町中学まで遠征した。陸上競技でも、県レベルの選手が育った。

東京真田町の会を初め、幼少時代を真田の地で過ごした皆さんが、今、全国で活躍されているが、当時は、学業でも運動でも、ガリ勉や、運動一筋といった中学生はいなかった。

3年生の志望高校を決める一斉テストは、確か1回しかなかったし、進路は成績や本人の希望よりも、家庭の事情が優先された。陸上競技大会の出場選手の選抜も、全員が運動場の端から端まで一斉に走って、早い順に種目を振り当てる程度の方法でしかなかった。

妙義山への遠足の記念写真には、藁草履を履いた足元も映っている。決して豊かな青春時代ではなかったが、懐かしく語り合えるようになった。今の子供達が、50年後に、東京真田町の会で、久しぶりに会って、交す話題は、どんなだろうかと考えながら、帰路についた。当時は、東京に行けば、少なくとも帰りは夜行。今日のマイクロバスは、明るい内に真田町に到着、これから田んぼの草刈でもするかとの冗談が車内で出た。

東京真田町の会が、ますます盛会になることを祈念します。

ゴルフ考

真田町助役 柄沢 衛

私も先日、満68歳になりました。あと2年で「古希稀なり」です。たまに無理をすると、腰が重くなるともいしばしばです。

それでも仲間と年の話になり、「柄さんは若えない。」などと言われると、



腹の中では「うん、そうか、そうか」と自己満足しています。

若さを保つ秘訣は色々ありますが、私は今、ゴルフ第一です。ゴルフをするために、ウォーキング、ラジオ体操などを毎日欠かさず、忙しい合間を縫ってできるだけ体を動かすようにしています。

先日、東京真田町の会主催のゴルフコンペに参加させてもらいました。生憎の雨降りにハーフで「もうやめるだねーかい。」の声も出るほどでしたが、やはりゴルフ好きの者ばかり、ずぶ濡れになりながらも和気あいあいの中でラウンドを重ね、終わってみれば、それぞれ大満足の表情・・・。

楽しみは、競技終了後行われる表彰式での成績発表と馬券です。ところが、この日の馬券は、全くの無名馬が優勝、本命総崩れとなり、結局当たり券なしで馬主預かりとなってしまいました。私はこのコンペに10回程参加していますが、このようなハプニングは初めてで、飛賞もいた

だき大変楽しい1日となりました。毎年恒例の真田町民ゴルフ大会にも、東京から大勢の皆様の参加をいただき、会を盛り上げていただいております。

今後、このような交流の機会が継続できればと願っています。

そして、大先輩の半田幸弘さんのように、いつまでも元気でプレーできることを念じつつ・・・。

この原稿を武捨さんから依頼された時、昭和63年の東京真田町の会発足当時を思い出しました。

私は、当時役場で企画課長をしていたので、東京での最初の準備会に出席し、渋谷のロゴスキーさんで発起人の皆さんとふるさとへの想いを語り合ったこと・・・。

その後、ゴルフ好きの初代会長の小林孝雄さんとは何回かプレーさせていただきました。

東京真田町の会の皆様のふるさと真田町も、来年3月6日に合併します。真田町としては最後の会報に拙文を載せていただくことも何かの因縁かと、当時を思い感慨深いものを覚えます。

合併し、新生「上田市」となりまして、今まで以上に真田地域との交流を深められ、東京真田町の会が益々発展されることをお祈りいたします。

父の涙

真田町大庭 内海 宏光



八月十三日朝、四十数年ぶりに実家のお盆様盂蘭盆飾りの手伝いに行った。兄と私は父の時代と同様に仏壇に茶を御供えし、先祖の位牌を仏壇から取り出し一体つつ丁寧にはたきを掛けながら座敷に作られたござ掛け台の祭壇に飾り付けを行った。祭壇には先祖の位牌、仏具、果物、キュウリやナスで作った迎え馬、送り牛、そして両側にお花の飾りつけもした。

正面の両親の位牌を除けば私が幼い時と寸分も変わらぬ配置であった。祭壇の周囲には数個の提灯が吊るされ、または立てられた。私は飾り終えた祭壇前に正座してお線香をお供えし、両手を合わせ祖先の霊に祈りを捧げ、瞑想に浸りつついつの間にか幼少時にタイムスリップした。

そこに現れた情景は着物・羽織姿の父が(幼少の頃、お盆様は旧盆で九

月十三日からで、当日は父は常に一日中着物姿で過ごしていた位牌等を座敷に作られたござ掛けの祭壇に飾り付けを始めたところであった。その近くで幼い私と妹が父の周りで犬ころの様にふざけ合い駆けまわり、今日から始まるお盆様の楽しさ(「野菜、きのこ、ちくわ、こんにやく等の美味しい煮物、天麩羅等のご馳走」また「盆さん盆さんこの明かりでおいで〜おいで〜」と歌いながらお墓で次に家の入り口で稲藁を焚く迎え火、その逆の十六日の送り火「集会場の庭で二重三重の輪になって踊る盆踊り等の行事」そして「親戚の人がよばれて来て家族と賑やかに話している様子」妹とあげる線香花火等)を想像してはしゃいでいた。時には父の側まで駆けお盆様飾りの邪魔をして叱られ、少しおとなしくしてまたじやれ合っていた。しばらくすると父は飾り終えた祭壇の中から茶色の小箱を手に取り、蓋を開け中の紙包みを取り出し開きじつと見詰め静かに泣いていた。

父の頬には涙が伝わり、涙は紙包みに添えられている手の甲にも落ちていた。私達は父の不思議な様子に気付き、じやれ合うのを止めて父の膝によりそった。父の泣いているのを見上げると悲しくなり、本当はどこも痛く無いのに「手が痛いよう〜足が痛いよ〜」と父に取り縋り泣いた。父は二人の頭を静かに抱えてくれた

ので安心してひざに掴まり泣き止んだ。父は涙を拭き母を「おい」と呼んだ。暫くして母が料理作りの手を休め、お茶を入れた茶碗を祭壇にお供えし父と一緒に手を合わせていた。私達兄妹も両親の横で真似をし、小さな手を合わせお祈りした。

この情景は毎年九月十三日お盆様の飾り付け時に見受けられた。私達兄妹も段々大きくなるに連れて、お盆様飾りの日父が小箱を開き「おれが代わってやりたかった」などと呟き涙に濡れている様子を遠くから眺め手を合わせる様になって行った。この情景は私が上京するまで途切れることはなかった。

中学生頃であつただろうか？私はお盆様の祭壇に添えられているその小箱をそつと開き、中の物を確かめた。中には色のくすんだ和紙の包みが二つあり、表には朱色で「内海源治」「春原(旧姓内海)渡」とそれぞれ自書されていた。それを開くと短い髪の毛と爪が入っていた。それは正に、戦死した兄達が出征の際家族に託した形見であつた。

父は毎年九月十三日のお盆様の飾り付けの時、身を清め着物・羽織姿の正装でその中身を開いて確かめ、二人の息子の「遺髪・爪」に触れ慈しみ、悲しみ、泣き濡れていたのだ。この日を英霊となった愛しい二人の

息子を迎え、触れ合い、語らいの一旦としていたのではないだろうか？

二人の兄とは

昭和十九年九月三十日デニアン島にて戦死した陸軍大尉、内海源治行年二十六才。

昭和十九年九月三十日中国湖南省常寧県にて戦死した陸軍大尉、春原

(旧姓内海) 渡行年二十四才。

私の知っている兄達はアルバムで見ている源治兄様の剣道着姿、また渡兄様の黒帯の柔道着姿、そして座敷に飾られている両兄様の軍刀、拳銃を携えた凛々しい将校服姿の写真等。また両親兄弟そして親戚の春枝姉やん等が話してくれた内容、例えば「源ちゃん達が宏坊のオシメを取り替え様とすると、嫌がり」ふるちん「で家の中を這い回り兄やん達が追い駆け回していた」など聞き自分なりに写真にある将校服の両兄が、小さな私を追い回す情景をイメージ化していた。

父は我が家を初めて訪れた人達が座敷に飾ってある二人の写真を見て「誰か」と尋ねられた際等には「兄達の経歴を、そしてお国の為に戦い戦死した事を誇りとして」気丈に語り、その顔は輝いていた。

「遺髪・爪」に触れ頬を伝わる涙を拭おうともせず悲しみ泣いていた父、英霊となった二人の兄を誇りに気丈

に語っていた父、父の心境はいずれか……世の中にわが子を亡くし悲しまない親はいらるだろうか？

今思料するに、毎年九月十三日お

盆様を飾りつけた後二人の「遺髪・爪」に触れ、確かめ慈しみ悲しみの涙を流していた父こそが真の姿であつたろう。

実家の兄に父のお盆様飾りの際の様子を話し「小箱の事」を尋ねたところ、父が死亡(昭和三十九年九月二十一日)、埋葬土葬した際、小箱は一緒にお棺に納めたとのことであつた。この話に登場する人物の内両親(内海喜間多・さだ子)はもちろんのこと、親戚の春枝姉やん(内海春枝)そして妹(塩入妙子)もすでに泉下に旅立られている。今ごろ天国にいる兄そして両親らは、蓮池の淵を仲良く語らいながら散歩し、池を透して下界の我々を優しく見守っている事であろう……。

先の太平洋戦争から六十年が過ぎた。私達は戦争のない平和な日本が永久に続く様努力すると共に、亡くなった英霊に対し祈りを捧げたい。

合掌



故里を慕いて

真田出身 武田 守央



東京真田町の会の理事をされている鈴木邦子様より電話を頂き、会報「日本ダボス」の原稿を書いてくれなにかとのこと。さて受けてしまったものの、何を書いて良いのか迷いましたが、田舎の事でも書く事にします。

私も生まれ故郷真田を離れて、東京中野に八年、千葉市川市に二十八年と真田に生まれ育った年月よりもこちらで住んだ期間の方が長くなりました。現在は町会、老人会、グラウンドゴルフ、ゲートボールと役員を仰せつかり、地域の皆様と楽しくお付き合いさせていただいております。

住めば都と申しますが、高校野球や選挙等、関心は信州田舎の方を向いてしまします……私の都は故里なのかも知れません。

こんな私を見て妻は信州人の特徴いつまでたっても田舎離れしないと笑います。それもそのはず、在職中

は正月盆休みと会社の休みに合わせて、慌ただしく帰郷しておりましたが、六十才の定年を迎えてからは四季おりおり、事あるごとに義姉からお母さんが待っているからいつ来る……と誘いの電話をいただき、私もそれに甘えてその都度帰郷しております。

「故郷は遠くにありて想うもの」といいますが、最近では交通網も発達し、鉄道も新幹線又高速道路と真田町も近くなりました。私の家からは車で三時間程。実家に帰った時の挨拶はなぜか『ただいま』店先で兄は『お来たか』義姉は『いらつしやい』九十三歳になる母は『待っていたよ』この程度の挨拶です。これも時々顔を合せる事で許されるのか……。

帰るたびに驚くのは真田町の変わりようだ。生活環境も向上したであろうが、故里を離れた者にとつては嬉しい反面淋しさがつのるのである。これも目まぐるしく変動する生活環境の故にしかたないのかも知れない。三年前から冬は友達に指導員の手が足りないのを手貸してくれないかと頼まれ昔スキートのインストラクター、今年も三十日程スキートの指導をしました。今年の冬は例年になく雪が多く寒い日が続きました。

熊本から修学旅行を兼ねて菅平にきた生徒は三日間の指導でしたが一日でも晴れず可哀相でした。一日でも

晴れたらダボスから見える北アルプスの峰々や、東に仰ぐ浅間山の大自然の雄大さを見せてやりたかったです。

晴れた朝の菅平は朝日に輝き、霧氷に包まれた木々がダイヤモンドでもちりばめたごとくキラキラ輝く様は爽快そのもの……こんな景色を見ることが出来る喜び……幸せです。

又春は新緑の山々……兄によると春の紅葉も素敵との事です。確かに芽吹き、吹きの木々の緑は七色八色にも輝き、絵にも描くことの出来ない程の大自然に完敗。

今年の夏も暑く、私の家の前は緑に覆われ、緑地帯として市で保護してくれており、町の中より二三度涼しく感じますが、信州とはくらべものになりません。

暑い市川を店の手伝いもあつての早めの帰郷、ちょうど真田祭りの日、真田祭りも町としては最後とか……箱山町長の挨拶も最後ということ、熱が入っており、花火大会も例年になく数多く上がったと思います。

来年の真田祭りは上田市と合併でどんな祭りになるのか、又合併という大きな問題を抱えてこれから先、真田町はどのように変わっていくのか……どちらにしても私達の生まれ育った郷里である真田町の益々の発展を祈るしかない。

秋は東京真田町の会のゴルフコンペが安中市で有り、その帰り真田へ

紅葉狩りに行こうと思っております。いつも帰郷のおり楽しく遊んでくれる友達、又温かく迎えてくれる兄夫婦に感謝、感謝。

傍陽尋常高等小学校

卒業同級会の雑感

中組出身 橋詰 吉万雄



『おい、はあるかぶりだや、元気だったかや……』

毎年四月には小学校卒業生の同級会を開催している。そんなある年の同級会の席での事、いつもの様に宴会が盛り上がった。

『おい俺らはな、名譽ある傍陽尋常高等小学校を出ているんだぜ』その話の前後は思い出せないが、懐かしい子供の頃を一時思い出させた言葉だった。

思えば昭和十三年の春、満開の桜、早春の太郎山にも裾の方から木々の芽吹きが始まる頃、その名譽ある「傍陽尋常高等小学校」に入学、忠組、

孝組の二クラスで男女共学だった。高学年になり物心付く頃になって男女別々に、やがて敗戦色濃くなか、昭和十九年春小学校の課程を終了し、二年間の高等科も終わり夫々の道を歩む。

無事？に高校を卒業、昭和二十八年四月高校の恩師の紹介でふるさとを遠く離れて生活することになる。

これまでの二十年間温かく育んでくれた家族や忘れ得ない周囲の人達と別れ、東京に就職して早や五十二年、五地区で順番に開催している同級会ですが、今年は関東地区が持ち回り幹事となる。時に年齢は七十三歳と七十四歳の元氣者です。

選んだ場所は信州佐久の一万里温泉（ホテル・ゴールデンセンチュリ）でした。当ホテルの温泉はホテル敷地内の地下一、三〇〇メートルから湧出の天然温泉で宿泊客の旅心を満足させてくれる。団体の場合、ホテルから上田駅経由傍陽迄の無料送迎バスも魅力の一つだった。

案内状発送の名簿作成を始める。昭和十九年卒業時は丁度一〇〇人だったがあれから六十年、若くして亡くなった人、行方知れずの人がおり、案内状の発送数は六十八枚となる。

都合の悪い人、健康を害している人等があり、結局出席者は三十一人となっていました。遠くは岐阜県・愛知県からも駆けつけてくれた。

宴会場は丸テーブルに椅子席で大

好評でした。大方は一年ぶり、中には何年ぶりの人も……『よう〇〇ちゃん元氣だったかや、やくやく東京からかい、おいだれは今なにしているだや』

毎年この同級会だけはだれもが皆幼い頃からのちゃん呼ばわりで挨拶。あの木造校舎で一緒に学んだ懐かしい顔が揃った。

宴会を始める前に幹事の心遣いで、亡くなった同級生の冥福を祈り「一分間の黙祷」を致しました。

同級生名簿の最後に記録してある二十七名の物故者に対して、皆はそれぞれ天国にいる友をしのんだ。いたずら小僧だったKちゃん、色白でおとなしかったSちゃん、優しかったMちゃん、いつも元氣だったFちゃんや一度も同じクラスにならなかった人……私は一人一人の顔と声を思い出しながら、早すぎた死を悼み皆元氣で頑張っていることを心の中で報告した。

黙祷が終われば今は今友の冥福を祈りながら、今年もこうして生きて元氣で同級会に出席出来たことに感謝する。交通事故、災害、病氣と災難がいつだれの身に襲ってくるかわからない中で、生きていることの尊さ、元氣で働けるありがたさを再認識させられた。

乾杯の後懐かしい話に花を咲かせ、酒を飲み夜の更けるのも忘れる。布団の中に入っても何時までもしや

べくっている人、早くからいびきをかいている人……こうして、今年の同級会の幹事役も無事終了、来年の再会を約束してそれぞれの生活にもどる。

オートマタ（からくり人形）との出会い

横尾出身 鈴木 郁夫



9年前（54才）に脱サラをして、今の仕事（オートマタ：ヨーロッパからくり人形の復元・生産）を初めました。思い返すと高校を卒業し、三協精機でオルゴールの設計をしたいとの思いが叶い、入社以来15年間オルゴールのメカ設計を担当する事が出来、この頃オルゴールの専門書でフランスで昔作られた「たばこを吸う兵士」の人形を見て、いつかはこれを自分の手で作って見たいと思った事が始まりでした。

その後東京に転属となりオルゴー

ル商品の企画・開発を担当し、この事により物作りノウハウや素材知識等を学ぶことが出来、これが今の仕事に大変役立っています。

今から15年程前のバブル期から、日本各地にオルゴール博物館が続々と開館され、一般の方でもヨーロッパで100年以上昔作られたオルゴールやオートマタが直接見る事が出来、私も各地でそれを確認し感動をし、これにより益々自分で作りたい思いが深まりつつ、自分で作るとしたらこんな方式で作ろうと、自分なりの決め込みが出来た事から独立を決意し今の仕事を始める事となりました。

オートマタ（からくり・自動人形）の歴史について少々ふれますと、ヨーロッパで1870年頃から1910年頃にフランスを中心に沢山のオートマタが作られ、民衆に受け入れられた様です。この前提には1850年頃から磁器顔人形（今のアンティーク人形として取引される物）がはやり、これを製作する人形作家が何人も現れ、その中で「ジュモー」「ブリュ」等の人形作家がオートマタを作り始めました。1890年頃からはメカニズムを主体とするオートマタ作家が現れピエロや黒人などのデザインでより高度な動きを追求したオートマタを作り始めました。

一方日本でのからくり人形の歴史は：今でも京都の祇園、飛騨高山等

各地で演じられている「だんじりからくり」を見逃す事が出来ません。これは1600年代から始まったと言われますが、動かす部位からひもを引きだし、これを数人の人で引いて演じるものですが、自動からくりとしては江戸時代後期1840年頃頃に作られた「弓射り童子」やその後設計図が江戸で売られていたと言われる「茶運び人形」が作られています。当時は金属製法が確立されておりました。それからゼンマイに鯨のひげを使っていた事など等、大変興味深い事です。これらは明治維新が1868年です。それからヨーロッパのオートマタ時代と比較して日本でも技術としてかなり進んでいたことが分かります。もともとオルゴールが付かない自動人形としてはヨーロッパでは1780年頃に「ジャケ・ドロウ」が人の顔や犬を実際のペン先で本当に描く人形を作り上げ、スイスの博物館に今でも現存をしています。

私はこのヨーロッパのオートマタの復元・製作を始めましたが、製品の商売のメインは通信販売が大半ですが、この通販会社ではスイスのオルゴール博物館に監修を受け販売をしています。この博物館でサンプルを見て、私の所でも売りたいかと数台買って戴いた事は本場のスイスの専門家にも有る程度認めて戴けたと、私も自信を持つことが出来ました。又毎年2月に三越本店（日

本橋）でオルゴールフェアが開催されますが、そこで私も製作実演や展示即売をさせて頂いておりますので、私の商品も少しずつではあります。市場認知も戴きつつ有ります。

幸い商売としては市場規模が小さい事から、国内では同じような物を作っている人・会社はありません。生産も僅かな量です。で家内が衣装を縫製し二人で細々ではあります。ライフワークとして続けて行きたいと思っております。

商品等の詳細にご興味の在る方は <http://www.dab.hi-ho.ne.jp/~ikusa/> をご確認ください。幸いです。

上田の思い出

曲尾出身 丸山 廣義



来年三月に我が真田町も上田市に仲間入りするとのこと、他県の人々には呼び名も良く分からない小県郡とおさらばするの一寸淋しい気がする。

上田には私にとっていろんな思い出があります。その上田市の郊外に信濃國府があり、八日堂縁日で名高い国分寺がありますが、一月の寒い頃に行なわれるその縁日に毎年行くことが、小学生、中学生の頃の唯一の楽しみでした。僅かな小遣を貰い、胸躍らせ仲間と楽しんだ、そして帰りには必ずといっていい位、町へ出て映画を見て帰る。そして翌日より、縁日の、映画の話題は持ち切りになる。

その後、高校の三年間上田へと通学するようになる。行き帰りの電車の中での会話……。

卒業して東京の学校に来たのですが、私の長兄が、旧松尾町で「マルブン堂」と云う文具店を開業しているものだから、学校の休み、卒業してからの帰省の際には上田に寄ります。それに私共の祖先は上田の出身ですので菩提寺も上田にあります。昔真田の強者が切り開いた上田市の一員になれることが何やら誇らしく思えたりします。

最後に今年の二月に「船橋よもうり」と云う新聞に掲載された高校生活最後の思い出を綴った作品を、もう一度披露させて頂きます。
(卒業と云うテーマでした)

《春浅い千曲川上田橋の別れ》

もう50年経ってしまった。私は信州上田のある高校を卒業した。春浅

い信州の3月。川向こうに上田城を見ながら、霧に煙る千曲川の土手を卒業式に向かった風景は、いまだ脳裏に焼きついていて。3年間の学校通い。千曲川に架かる上田橋で、私と、川を隔てて反対側の高校へ通う女学生といつもすれ違った。互いに目を下にそらしながらも、心の中に熱いものを感じ、通り過ぎてからそつと後ろを振り返った。名も知らぬその女学生とも、その日で姿を見ることができない。すべてが終わってしまったのかと、そんなほろ苦い思いを胸に卒業式へ……。

あの人は今どこに……。きつとお孫さんたちに囲まれて幸せな日々かと想像する。

「世相 今、昔」

真田出身 荻原 學



昭和一桁生まれ、つぶさに世相を見ると、その変化は驚くばかりであり、スピードも速い。

生まれ育った故郷は心の拠り所であり、生涯その想いは持続する事だろう。かつて上田電鉄の電車は便利でもあり誇りでもあった。若い頃帰省するたび、上田駅で電車に乗るとそわそわしたものだ。電車の軌道の一部は今自動車が行き交っている。其の内そこに電車が走っていたことを知る人は少なくなるだろう。かつて学んだ学校の面影はなく、近代的な校舎になっている。催しがある前日は校庭に全員横に並び、小石を手で送りながら進み清掃したり、軍事教練も……、校庭の南端に相撲の土俵もあった。現在は諸設備も至り尽せりで環境も良く、大変結構な事と思う。教育計画も計り知れない。

各地で起こるいじめによる事件も大きな社会問題となっているが、物質的に豊かでも充たされない何かがあるならば、いじめの心理は何が原因で発生するのだろうか。我ら小学校時代にはいじめ等はなく、がき大将で何人かを連れまわすやからはいが、学校であだなを付けてからかう位のものだったが……。

たんぼの手伝いは重労働だった。疲れを癒すかたの住まいは、煤で薄暗く四十ワットの裸電球、湿度も高い部屋、何もかも惨めだった。今の生活環境を見るにつけ、文明の差は比較にならない。

真田町ぐるみの下水完備の水洗化

は素晴らしいの一言に尽きる。帰省の折、兄に連れられてゲートボールを試みてみた。実に面白いし気取らないのが一番、意識してもままならず、偶然好位置に運べる幸運も健康的で良い。

人夫々、人生の歴史があり、今、昔を思うとき、学童であった戦時体制下の遠い体験の記憶も鮮明であり、簡単には語り尽くせないが知って欲しい思いは残る。終戦と同時に自由主義とか民主主義とかへの百八十度の転換で、その教育をされた先生方の苦悩や、切り替えの苦勞をお伺いしたいものだ。

終戦後昭和天皇が人間天皇として全国を回られた折、上田球場に来られた。待つこと何時間か、遠方から見た瞬間、胸に迫るものがあつた。あの感情は何だったのだろう。後年プロ野球の試合観戦で巨人の川上選手の勇姿も見たが……。

かつての家族構成は数人かそれ以上も珍しくなく、それこそ肩を寄せ合つての生活で、親から叱られ兄弟喧嘩あり、親の手助けも生活の一部だったが、不満も言わずそれぞれの役割で手伝った。山道を重い桑など背負ったお陰で足腰が鍛えられ、また生きる知恵と躰や道徳などが自然に身につけられた、感謝すべきか。

核家族の時代である現在、老いた親がどちらか独りになると問題も多い。全家族で暮らした過去は良かった。

たのか悪かったのか、様々な問題を考えると前者かも、今は通用しない時代だが、少子化が問題視されているが、核家族なども多少の要因をなしているかも知れない。

IT時代に入り社会は急速に変化した面もあり、IT装備の製品も生活必需品の一部になっている。また情報を知らないと不利(損)な事もあり、行政などの広報を注意深く目を通さなければならぬ煩雑な社会になった。

人生わずか五十年は相当過去のことだ。長寿も様々に論評されているが、人夫々の寿命は分らない。しかし現在の日本人は長命である。

食文化でも昔高級魚今大衆魚のサンマが良く食卓を飾る。とりたてのキラキラ光る新米で食べた、真っ黒に焼かれたサンマの旨さは忘れられない最高のご馳走で、季節感も味わったものだ。今は様々な食材にも季節感がなくなった事が言える。

目まぐるしく変化する社会で、本来の人間性を基調にした生き方を望みたいが、文明はそれを許さない面もあり、流れに沿っての生き方も宿命だろうか。将来の我が国はどんな変化をするのだろうか。まだまだ過去現在の相違は数限りなくあるが、体験されている皆さん方も痛切に、また懐かしく思い起こされる事でしょう。

会員交流のご紹介

顧問 清水 清晴

(中横道出身)



「日本ダボス」第十六号と第十七号に掲載された山口副会長さん宛の坂口様のお便りを拝読させて頂きました。

十六号には「幼少の頃の友、戦友色々な親睦会など真田町を訪ねても友という者を探すのも困難」云々と・・・又十七号には、昔の学校の読本の一節に、先生に教わった新体詩という「町の辻」

雪どけ道のぬかるみを

杖にすがりて とぼとぼと

歩み来たれる 老婆あり

と道徳心の詩が書かれており、同年輩で、環境の一致する处もあると思ひ込み、私の書いた回顧録「洗馬川」にも「町の辻」を掲載しており、お目通しして頂いたらと思ひ、「洗馬川」と一緒に今年の総会の様子の大略を書いた手紙をお送りしました処、お

返事を頂きました。

「日本ダボス」の記事が縁で生まれた会員交流の一例としてご紹介したいと思います。(坂口さんにはご了解を頂いてあります)

拝復

思わぬ懐かしのお便りを戴きました。非常に嬉しく存じました。右指と小指一寸した事で包帯の為、思う字もかけぬので御判読下さい。真田町の会発足以来、何年か出席して楽しく、楽しく過ごさせて頂きました。が、この所何年か欠席して誠に残念に思っています。

清水様のお顔お姿等も、ありあり覚えて居ります。立派な回顧録を私の方迄送って戴いてほんとうに恐縮して居ります。去る十二日も総会の日なる事は充分承知して居りまして、自室で独り想い出して寂しく一日を送りました。頂いた本もすっかり読ませていただきました。立派なものであります。

私は大正二年生まれですので九十才と言う高齢になりました。八十八頃までは働いて居りましたが、その後異常が来りて現在は何一つ出来ず、腰脚が不能な状態です。年齢には到底敵いません。同年生、親友、戦友と徐々に旅立たれ、昨年は家内までも他界し全くの一人ものとなりました。真田の長からも同年輩の者

が六・七人きていましたが、現在は一人もいません。私一人のみです。ご本を見せて戴くと私の幼少の頃と、清水さんの境遇が良く似て居ります。上田の大原簿記に行く前、父が急死故、奉公に家を出ました。転々と養蚕の手伝いから、あらゆる事に従事、徴兵検査は別所にいた時です。別所では観音様に勤めました。僧になれと言われましたが、腰も上からずで、十何年つとめました。

私も軍籍に有りました故、折から戦争が始まり止む無くお寺に長くいるわけにならず、昭和十二年天台宗の大僧正様の取持ちで結婚はしましたが、とうとう軍事工場のある近く、上山田に移りました。そこへ今度は赤紙が来て、東部五十部隊西村隊第三機関銃中隊入隊、この隊は後でトラック島で全滅となる。私は松本駅出発直前に四、五十人程、即座帰郷を命じられ帰郷しましたら、ノンビリどころの話ではなく、徴用令、間もなく赤紙と今度は四十九部隊入隊、即刻中部百部隊転属、とうとう終戦まで外地に行かず終りました。読めるでしょうか、まだお話ししたきは沢山ありますが今日は失礼申します。有り難うございました。



坂口 豪

ふるさと

理事 木南 和世

(中横道出身)



この五月と七月の終わりに、墓参りかねて真田町に帰った折に「湯ノ丸高原」「志賀高原」等を巡り、きれいな空気をたくさん吸ってきた。やっぱ山々は、ふところが深く、傍陽生まれの私には一番合っていて、気分が落ち着くような気がする。東京生まれの夫は、会報12号で菅平出身の長屋京子さんが書いていた「不思議の国の信州人」という本を以前買って来て、私を時々「不思議の国の人」と呼び、全くその通りと納得している様子です。結婚当時は、父の話など半分は分からないと苦笑いしていたのに、しばらくすると方言、部落名、近所の方々がわかり、真田町がふるさとのような感じでした。今回の帰省で大変感激を受けました。傍陽農協に立ち寄った際、兄が「うちやんだい」と話しかけました。子供の頃知っていた、近くのきれいなお姉さんでした。お互いに「ま

あ・・・」と少し間があつて、私が「三番目です」と、お姉さんが「大きくなつて!」「はい、私もう60歳を越えました。」笑いながら「幸せそうだに!顔を見るとわかるに・・・」うれしかった・・・夫もほっとしたのに違う。店の中に入り、新鮮な野菜、地粉、冷や麦、酒粕など長野の産物を購入、車に戻った所へ、お姉さんが大きなかぼちゃを買って持ってきてくれた。ふるさとならではと思い、車の中で涙した。かぼちゃとてもおいしかった。

この6月に総会も無事終わり、懇親会のかくし芸大会、昨年同級生に「誰か何かやらない?」と声を掛けるところ、安田美智子さんから「氷川きよしのズンドコ節」をみんな知っている、炭鉱節で踊ろうと提案され、子供の頃公会堂で盆踊りを賑やかに踊ったことを思い出し、仲間に呼びかけて、五郎ちゃんのピエロ君を先頭に、ぶっつけ本番です。はらはらどきどき、心配しましたが、さすがみんなそれぞれの持ち味で、楽しく踊り終えました。みなさんありがとうの一言でした。次回また、みんなでなにかやりましょう。同じふるさとを共有し、打ち解けてお会いでき、みんなで楽しみたい、とつてもよかったです。当日、信州真田町よりお越しの皆様お忙しいところ、ありがとうございました。

ふるさと便り

顧問 三井 芳郎

(真田町大庭在住)



「金メダリスト野口みずき選手」
昨年のアテネオリンピックで女子マラソンの野口みずき選手が金メダルに輝いたこと、真田町菅平高原にその記念碑が出来たことをご存知の方は多いと思います。私は先日菅平観光協会の許可を得て友人とこの記念碑を見ってきました。今再び野口選手とアテネオリンピックを振り返って見たいと思います。

記念碑は菅平の中心街から十数キロメートル程上った四阿山に近い方にありました。朝から降っていた雨が晴れ上がり、標高千六百メートルの記念碑前から見ると風景は、はるか彼方に連山がそして雲が山の裾にたなびき何とも云えないすがすがしい景色でした。

「ハーフマラソンの女王」
野口みずき選手は三重県伊勢市の出身で、身長一五〇センチ、体重四

〇kgのマラソン記録保持者です。宇治山田高校時代にはインターハイ、駅伝でも活躍されました。
一九九九年グローバルに入社、この年大山ハーフマラソンに優勝したのをきっかけにハーフマラソンに取り組み、一九九九年の世界選手権で二位になり、二〇〇一年全日本実業団で優勝、宮崎ロードレースで優勝するなど活躍はめざましく、二四戦一四勝でハーフの女王として知られました。

「野口選手とマラソン」

二〇〇二年三月、初めてのマラソン・名古屋国際女子マラソンで優勝(二時間一五分三三秒)。
二〇〇三年一月、大阪国際女子マラソンでは日本歴代二位の記録で優勝(二時間二分一八秒)。
二〇〇三年八月、世界陸上選手権パリ大会で銀メダル(二時間二四分一四秒)。
二〇〇四年二月、青梅マラソン(三〇km)で日本最高記録で優勝。
二〇〇四年八月、アテネオリンピックで金メダル(二時間二六分二〇秒)。
二〇〇五年九月、ベルリンマラソン、日本アジア最高記録で優勝(二時間一分一二秒)。
「アテネオリンピックマラソンと野口選手」
二〇〇四年八月二二日、第二八回アテネオリンピック女子マラソンで、多くの途中棄権者が出て史上最難関

コースと言われたマラトンからパナシコ競技場までの四十二・一九五kmを走った野口みずき選手は見事金メダルの栄冠を手に入れました。

いかに困難なコースかは次の事によっても窺い知ることが出来ます。

紀元前四九〇年(今から約二千五百年前)の第二ペルシャ戦争(マラトン戦争)で、侵攻してきたペルシャ軍に勝利したギリシャ軍の伝令がマラトンからアテネの城門まで四二・一九五kmの道をひた走りに走り、待ちかまえていた大勢の市民に『喜べ、我が軍勝てり、我が軍勝てり』と告げて倒れ、絶命したと云うギリシャ人伝令の物語があります。

此の同じ道を二千五百年の時を経た今、そして近代オリンピック第一回大会がアテネで行なわれてから百八年ぶりに、第二八回アテネオリンピックとして帰ってきた、この同じ聖地でのマラソンコースは出場選手八二名中途棄権者が一六名も出たと言う難コースでありました。

「菅平高原と野口選手」

サニエパークが真田町菅平に一九九九年に完成してから野口選手はその陸上競技場やロードで練習していました。更に三年後に千メートルと二千メートルのクロスカントリーコースが整備されると、標高千六百メートル高低差五十米で女性には無理と言われたこのコースで、野口選手は「私の大好きなコース」と言って毎

日走り込んでいました。

野口選手一行の宿舎は「ロッジすずもと」でしたが、経営者の鈴木さんご夫妻は「野口みずきさんは大変やさしい人で地元の人たちにも好かれて仲良くおつきあいしていました。」ロッジでは、鈴木さんをお父さんお母さんと呼んで親しみと尊敬の念をもつて云っていたそうです。鈴木さんご夫妻も「みずきさん」と云って家族の一員のように呼び合って生活していたそうです。みずきさんは日本を出発する時「お父さんお母さん行ってまいります」と電話をくれたそうです。野口選手は菅平の後、中国とスイスで合宿をしてアテネに向かいました。

「マラソンの日」

野口選手は自分は上り坂には強いが下り坂には弱いことを充分承知していました。先頭集団から何時抜け出るかが大きな山場でした。二五キロでスパートを始め三二キロの上り坂の頂点では二位以下をかなり離していました。スタジアムに入った瞬間、大歓声をしっかりと聞くことが出来ました。それは四年前シドニーで高橋尚子選手が受けたあの大歓声を一人じめした時と同じで、自分の夢がかない今自分が一人で大歓声を受けていると思うと涙が出たそうです。二位のヌレデバは一二秒差でゴールインし、そして二分二四秒後に土佐選手が、五分二三秒後に七位で

坂本選手がゴールインした。日本の選手三人は抱き合つて泣いたという。四二・一九五kmを走り終えた野口選手のパンツには両親からのお守りがしっかりと縫い付けてありました。

「記念碑除幕式」

二〇〇四年九月一二日、野口選手は菅平での記念碑除幕式に出席し、地元の小中学生とコースを走り、合宿地として愛着ある菅平の人たちと喜びを分かちました。

金メダルを胸に下げた野口みずき選手、藤田監督、箱山真田町長、菅平観光協会小島理事長、他関係者三百人が出席されて記念碑が除幕されました。そこには重さ約二〇トンの大石が現れました。そしてプレートには「アテネオリンピックメモリアル、野口みずきクロカンコース、菅平高原」と刻まれていた。野口選手は「私の大好きなコース、菅平の皆さん有り難うございます。練習を支援してもらっただけでなくコースに名前を付けてもらい、ありがたうの一言では云い尽せない感動があります。北京オリンピックに向け、これからよろしく願います。」と挨拶されました。

二〇〇八年八月八日から北京オリンピックが開催されます。日本選手のご活躍を心からお祈り致します。(資料：ナンバー・フリー百科事典ウィキペディア、広報さなだまち、信毎、菅平観光協会)

しまなみ海道と

江田島

顧問 小林 孝雄
(曲尾出身)



私には、かねてから抱いていた一つの旅の夢があった。それは「しまなみ海道」(即ち尾道と四国の今治を結ぶ六つの島めぐりとそれらを結ぶ七つの橋を渡ることであった。過去に二回しまなみ海道を訪れたが、何れも途中の島までであった。幸い今年の四月から自由人となり、余暇が十分あるので、尾道に映画のロケセットである戦艦大和が造られ一般公開されている機会に、大和見学を兼ねて旅の夢を実行することとした。尾道には家内の妹が住んでいるので、事前に計画を立て案内をお願いした。二日間に亘る旅となるので、長男一家を同道しレンタカーの運転を長男に頼むこととした。11月3日午後2時半新尾道駅に到着、家内の妹夫婦の案内で先ず戦艦大和を見学、一同

巨大戦艦に感嘆して在りし日の雄姿を偲んだ。夜は家内の妹宅で賑やかに食卓を囲み、初めて会った孫たちは直ぐに慣れて家の中を暴れ回った。

翌4日朝9時ホテルを出発、駅前でレンタカーを借り、家内の妹がしまなみ海道の地理に詳しい友人をガイドに頼んでくれており、その方の案内で車二台に分乗し最初の島、向島に向かった。向島は日本の造船工業が華やかなりし頃、日立造船向島工場で有名であつた。今は当時のドックと大きなクレーンが残されているが、夜ともなるとライトアップされたクレーン四基が尾道の街を明るく照らしている。しまなみ海道に架かる橋は、夫々工法が異なり凡ての景観が独特で、中でも生口島と大三島を結ぶ多田羅大橋は、世界一の斜張橋と言われ、その優雅な姿は巨大なハープや羽ばたく鳥に形容される。途中数度休憩し瀬戸内の景観を愛で、最後の島大島の亀老山展望公園では、瀬戸内の全方位の景色を眺めることが出来、まさに最高の景観であつた。

夕近く対岸に今治と来島海峡を望む千年松旅館に旅装を解き、日が暮れて夕陽が海を照らす時、旅情が疲れを癒してくれる。来島海峡に架かる三つの吊橋は世界初の三連吊橋で、その美しさと威厳は見る者を魅了する。

翌5日は、朝9時旅館に別れを告げ、先ず大島のバラ園を見学、次の

伯方島で山頂の梅が花という名物の鮎屋に立ち寄り、眼下に広がる瀬戸の景観を眺めながら美味しい鮎を賞味した。次いで大三島の大山祇神社に参り、宝物館で頼朝・義経の甲冑や弁慶の薙刀等を見学、大河ドラマ「義経」の悲劇を偲んだ。

生口島に渡れば、瀬戸田で生まれ育った有名な平山郁夫美術館がある。シルクロードの壁画をはじめ数々の名画に圧倒される。かくしてしまなみ海道の旅を終えて、午後4時新尾道駅に帰着、ここで子供達の学校の関係で長男一家は横浜に帰った。私は長年の旅の夢を果し心満ちる思いであつた。その日は私共夫婦は尾道に泊り、翌6日広島に入った。

11月8日長女とその三男(小学六年生)が広島に到着、私の兵学校卒業60周年記念江田島大会と一緒に参加することとした。8日夕から宇品のホテルで全国クラス会を開催、翌9日朝8時二隻のチャーター船に分乗して江田島へ上陸、爽やかな秋空に松の緑もみかんの色も昔の面影を留め、懐かしさが込み上げてくる。

江田島大会は約500名が参加し、先ず大講堂で殉職および戦死した友の追悼式典を行い、江田島健児の歌を合唱して冥福を祈った。その後呉海上自衛隊音楽隊の演奏を聞き、昼は大食堂で昼食会を催し、これが最後と互いの無事を語りあつた。散会后は自由行動で、私は長女と孫を教

育参考館に案内した。そこには、太平洋戦争で若い命を国家に捧げた神風特別攻撃隊の写真や遺書等が展示されており、孫は食い入るように眺め感動の面持ちであつた。また、卒業生の氏名と写真の中からおじい

やんだと言つて私の姿を見つけて喜んでくれた。

今日が最後の江田島との別れと思ひ、若き日鍛えられた生徒館・武道場・古鷹山を脳裏に深く刻み、午後3時江田島を離れた。

〜サイエンスアイ：母体の不思議・超能力……

サムシング・グレートによると云うけれど……〜

埋め草記事で、今回は想像を絶する母体の超能力について触れてみたいと思います。たった1個の受精卵からわずか280日(十月十日)で60兆個(60,000,000,000,000)の細胞を持ち、生命の営みが可能な赤ちゃんをこの世に送り出す超能力をヒトの母体はもっています。この60兆個の細胞のそれぞれは無数の構成成分から成立っていますが、例えば1個の細胞の核の中にある1本の“DNA”だけでも30億対の塩基化合物をもち、それぞれがこれと同数のデオキシリボース(ブドウ糖などの糖の仲間)とリン酸を併せ持つので、その成分数は180億個となります。DNAは父母からそれぞれ1本ずつ継承するので細胞内には2本存在し、細胞1個あたりのDNAの成分数は結局360億個になります。

わずか4種類の塩基化合物が並び順を変えて30億個もデオキシリボース・リン酸骨格を介して連なっているのですが、ヒトの偉大なる母体はその並び順を間違えずに280日の間に涼しい顔で60兆倍に増やしています。そしてこの並び順の中の3%程の部分に生命の営みのマニュアルが記録されているのです。こんな精緻なメカニズムを誰が作り出したのか……謎なのですが、最近の学問の世界ではサムシング・グレート(人間業を超えたなにか)によると云われているようです。

DNAのたった4種類の塩基の配列で生命の営みを記述する仕組みは現存する生命体の全てに共通していると言われており、また胎生動物は母体の神秘的な超能力によってずっと子孫を残し続けているのですが、生命の誕生以来30余億年も延々と“DNA”を継承し、発展させている筋書きはどのようにして出来上がって来たのか……将にサムシング・グレートによるとしか考え様がないのかも知れません。(武捨衛人記)

第十八回総会・懇親会のご報告

副会長・事務局長 山口 元彦



一 開催日、出席者数等

【開催日】平成十七年六月十二日

(日)

【場 所】アルカディア市ヶ谷富士の間

【出席数】会員百二名、町から十七名

二 総会の部

【式次第】①「信濃の国」斉唱、②

会長及び真田町長の挨拶、③平成十六年度会務報告、会計報告及び監査報告の承認、④平成十七年度事業計画及び予算の決定、⑤役員補充について(理事を数名補充する必要がある、会員の自薦・他薦をお願いしたいとの要請)

【塩沢和政会長の挨拶概要】

大勢の会員のご出席及び遠く真田町からも駆けつけて下さりありがとうございます。会員の皆様には、ゴ

ルフ大会、マレットゴルフ会等にもご参加いただきたく、町の方々とも町民ゴルフ大会、さなだ祭りなどへの参加を通じて、いっそう親交を深めたいと思います。

町は、来年三月に上田市等と合併するようですが、どうなっていくのかと、期待と心配の複雑な気持ちです。是非とも、「ふるさとはいいな」と思える環境を作っていただきたいと願っています。

【箱山好猷町長の挨拶概要】

真田町は田植えもすみ、わらび、たけのこの時期になっています。

いろいろご心配をおかけしましたが、住民投票で六十パーセントが合併は必要との意見を示し、来年三月六日に四市町村が合併することに決まりました。少子高齢化が進む中で、どうするのが将来の住民のためになるかを考えたあげくの選択です。今後も地域のことは地域でやっていくという姿勢で進めますので、ご支援下さるようお願い申し上げます。東京真田町の会への補助金は、当面はそのままにし、合併後三年を目途に、他市町村の同様の会と統合してもらいたいと考えています。



三 懇親会の部

【三井芳郎顧問の歓迎の挨拶】

私は真田町に戻っていますが、町では古城の整備が進められており、遊歩道もできて、散策を楽しむことができるようになりました。皆さんもふるさとに帰省されたら、是非近くの城を訪れてみてください。今日は、時間の許す限りごゆっくりご歓談下さい。

【三井博文町議会議長の祝辞】

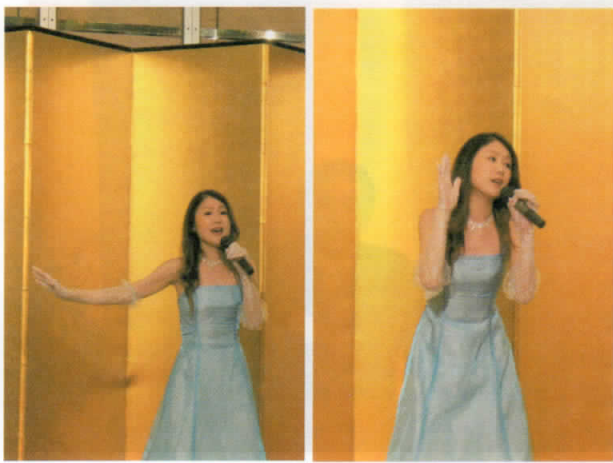
合併については、四市町村の首長が兄弟のように堅く信頼し合って進めている様子であり、必ず合併して良かったと思ってもらえるようになると確信しています。議会も全力で取り組んでおります。皆様のご健勝で活躍されますよう祈念いたします。

【柳沢 實氏の乾杯の音頭】

皆さんしばらくでした。元気な笑顔に会えて嬉しいです。また、町長さんをはじめ町を代表される方々がおいで下さりありがとうございます。全員が健康で楽しく過ごせるよう祈って乾杯しましょう。

【アトラクション】箱山リサさん

箱山さんには昨年に引き続きご出演いただきました。一段と磨きのかかった張りのあるきれいな声で、数々の歌とトークを披露し、出席者を魅了して下さいました。益々のご活躍を期待しましょう。



【隠し芸大会】

野村勝太郎会員「初恋列車」、田中英徳会員「恋女」、鎌田ちえ子会員「この広い野原いっぱい」、飯島敬三会員「都忘れの花のように」、三井史子会員「キテキ」と歌が続いた後、安田美智子会員の準備と指揮で真田中学校出身世代による「ズンドコ節で炭坑節踊り」、佐藤ムネ子会員の舞踊「からかさ」、トリは中澤盛雄議員の三橋美智也ヒット曲メドレーで大いに盛り上がりしました。

【大団円】「真田郷」の輪踊り、「ふるさと」斉唱、万歳、金子誠理事の閉会の挨拶があり、町からのお土産をいただいて、「来年も会おうね」と話し合いながら、解散しました。

【会場で聞いた会員の声】

①町長は「他市町村の会と統合」と言うが、同じ「真田町」の会員でも、他の旧村の人たちと親しくなるのは長い時間がかかったので、違う町や村の人たちと一緒にやるのはもっと大変ではないか。

②（①とも関連するが）旧村ごとに席を分けるのは、そろそろやめたらどうか。

③第二十回は盛大にやるべし（会費を半額くらいにするなど工夫して、大勢に来てもらうこと）

④最近の「日本ダボス」の文字は、一見するときれいだがどうも読みにくい。普通の活字（MS明朝体）でもっと大きな字にしてもらえないか。



各部の活動報告

☆親睦旅行

期日：17年11月6日～7日

参加者：男11・女12・計23人

コース：1日目 大宮駅西口大宮ソニック前集合(9:00)→高速度→佐久SA(昼食)→真田町(真田氏歴史館)→地蔵峠→松代(真田記念館・宝物館)→湯田中着(16:30)→ホテルおもだか宿泊

2日目

湯田中(9:00)→中野(りんご園・中山晋平記念館)→善光寺参拝→川中島(昼食)→高速度→大宮着(17:00)
担当理事 金子 誠



☆スポーツ

◎ ゴルフ同好会

恒例の春季親睦ゴルフ大会は4月20日、名門の霞ヶ関CCで開催された。参加者11名で少し淋しかったが、出場者は超名門のコースを堪能し満足していた。入賞者は優勝：宮澤達人、準優勝：永井哲夫、ベスグロ：堀内 福の3氏だった。

また秋季親睦ゴルフ大会は10月

5日、安中市のローズベイCCで開催され、参加者は真田町から参加の8名を含め総勢26名だった。出場者は



折からの悪天候をものともせず奮闘したが、結果は優勝 若林幸正氏(町議、角間)、準優勝 宮崎正三氏(町議、横尾)、3位堀内六雄氏(振興公社、大畑)と鍛え方の違うふるさと勢に圧倒され、当会の入賞者はベスグロの堀内 政氏(横尾出身)のみであった。来年は頑張りましょう。

担当理事 堀内 福、荻原啓治

◎ マレットゴルフ

春の大会は5月14日に薫風香る新座の緑陰のコースで14名の参加を得て盛大に開催。優勝 大久保きよさん、準優勝 武田守央さん、3位 布施京子さんでした。なお栄えあるBB賞は堀内寿美さん、BM賞は岸俊子さんでした。車座になって楽しい反省会の後、次回のh.cを設定して秋季大会に備え、散会しました。

秋の大会は好天に恵まれた10月22日に春と同じコースで13名が参加して開催されました。大久保きよさんが春に続いて二連覇を飾り、準優勝は大久保治夫さん、3位は鈴木邦子さんでした。ゲーム終了後は持ち寄りの料理を囲んでタラレバの話も出て、賑やかに至福の一時を楽しみました。



坂口 豪さんの

お便り

(山口副会長宛)

思うように字も書けない故 代筆をお許し下さい。

もう五十日にもなりますが 腸の手術に苦闘し もう最期と思っておりましたが 幸いに助かりました。今のところ立ち上がることができない故 その方面のリハビリに専念いたしております。

今年も夏ごろより 十二月発行の機関紙の原稿のことを気にかけておりました。身体調子が悪くて病院で認めましたので簡単ですが よろしくお願い致します。

記念の木

・村の学校の

向かって右のから松は
私の子供が植えたのだ
その子はとうに戦死した

・あの学校を建てた時

家の畑にあったのを
死んだあの子が掘り取って
かついで行って植えたのだ

・あの子が戦いくさに行く時に

学校の前で振り返り

私の植えたから松が
あんなに高くなりました

・昨日学校で校長先生に
その日のことを話したら
初めて聞いた記念の木
大事にするとおっしゃった

(坂口様は 数年前に体調を崩されるまでは 東京真田町の会の総会・懇親会を楽しみにされ 毎回ご出席しておられました。その後も 近況や心に残っている詩をお寄せ下さるなど いつも会のことを思っていて下さいます。今回も ご長男義幸様の代筆で 近況と詩をお送り下さいました。坂口様のご健康が一日も早く快復できますよう みんなで声援いたしましょう。 山口)



写真提供:三井芳郎殿

会報名「日本ダボス」

の由来について

顧問 清水 清晴

(中横道出身)



私は、「日本ダボス」創刊号から第十号まで編集を担当した者ですが、会員の中から、東京真田町の会の会報が、なぜ「日本ダボス」という名前なのかという質問があったとお聞きしましたので、その由来についてご説明いたします。

昭和六三年九月一日に、会員二三名、町当局、国會議員等を含む郷土の関係者五五名の出席を得て、上野池之端文化センターにおいて、創立総会及び祝賀会を開催しました。終了後の役員会議の際、会報を発行したらというご意見が出て、私、三井芳郎氏、横沢清人氏、長屋京子氏、柳沢義祝氏、上原辰夫氏の六名が編集委員を仰せつかりました。

一〇月八日の第一回編集会議で会

報名について協議したところ、真田町のどの地区で生まれ育った人でもなじみがあって、しかもふるさと真田町の誇りとする豊かな自然をイメージできる名前にしたということになりました。そこであれこれ意見を出しあった結果、みんなが知っていて町の自然を象徴するものとして「日本ダボス」が良いのではないかという提案があげられました。これは菅平にスキーをもたらししたシュナイダーが絶賛して付けた名前であり、その後の発展のシンボルとなったこと、そして真田町がスイスのダボス町と姉妹都市になっていて国際的な広がりも感じられることなどもあって、出席者一同これが良いということとで一致しました。

そこで、直ちに当時の小林会長の了解を得て町にも報告し、「日本ダボス」という名前が確定した次第です。たしかに、由来が分からないと若干奇異な感じがするかもしれませんが、このようなわけでありますので、どうか今後とも「日本ダボス」を大事にされて、会を発展させていたいただきたい、心からお願ひ申し上げます。



ゴルフ大会に父と一緒に
参加させて頂いて：

大畑出身 横沢 優佳



東京真田町の会に入会させて頂いてから直ぐに名門、霞ヶ関CCにお誘いを頂きとても嬉しく思いました。ゴルフを通じて真田町出身の方々と現在真田町で過ごされている方々と知り合う事ができ、今も昔も変わらない真田町の情緒あふれる中に偲ばれる、歴史等を楽しみ会話の中から垣間見る事が出来る今の自分の環境を、とても嬉しく思います。

ただ、年に何度か田舎に遊びに行った際に、お墓参りをして…と言う単純な行動では知り得なかった、幼い頃に真田町で過ごされて来た東京真田町の会の皆様、父親の気持ちを、ゴルフというスポーツを通じて今、少しは理解できた様な気がします。

今後是非、参加させて頂きたいと思しますので、ご迷惑をお掛けする事も多いと思いますが、どうか宜しくお願い致します。

会員の皆様の

近況報告抜粋

(出身区・旧姓)

1 斉藤静江(横尾・青木)

いつも欠席ですみません。

2 石谷彰治(下横道)

いつも御案内頂き深謝申し上げます。今回は所用に依り欠席致します。皆様に宜しく。

3 石橋祥子(菅平)

元気に忙しく過ごしております。

4 小坂井やえ子(曲尾・石巻)

根小屋城に山吹色の遊歩道、

故郷に住んでいた頃から山のシンボルの様に咲く山吹の花……今が満開と便りがありました。真田会の御発展をお祈り申し上げます。

5 金子和子(大日向・一之瀬)

お世話様です。是非一度出席させて頂きたいと楽しみにしております。たのに今年も又、行事が入っていて出席出来ず残念です。盛会をお祈りしています。

6 清水民子(曲尾・上原)

出席できる様になりました。遅くなり申し訳ありません。宜しくお祈り申し上げます。

7 上原佳和(中横道)

元氣です。

8 藤井やすい(下横道・内川)

クラス会とかさなりましたので欠席させて頂いたきます。

9 柳橋米子(下横道・内川)

いろいろとお世話様になつております。行事が重なり欠席いたします。町長さんの「麦畑」など思い出し……楽しい会になりますように

10 内海章緒(大庭)

17年4月からゆうメイトで頑張っています。

11 内海辰三(大庭)

病気のために総会に出席できず、会費未納になってしまい申し訳ありませんでした。欠席者にはなるべく払込取扱票を送って頂ければ幸いです。(平成14・16年分払込みます。17年1月17日付信)

年相応の健康を保って暮らしております。他の会合と重なり出席できません。御盛會をお祈り申し上げます。(17年5月19日付信)

12 大庭今朝女(大日向・大久保)

故郷も年々遠い存在になります。年に一回真田町出身の皆様とお逢いして、故郷の思い出に浸る事を楽しみに致しております。

13 大久保治夫

遅くなりました。

14 荻原 學(真田)

都合上総会に出席できず済みません。皆様の近況を目にするのも、お手伝いできるのも健康の証ですね。

来年3月には、新上田市となること、幸多かれと祈るのみですが、山川風土は私たちの故郷です。

15 岩井泰子(中原・荻原)

今年もどうぞよろしくお願い致します。会報楽しみに拝見しております。塚田さんの死には同期生としてとてもびつくりし残念に思います。御冥福をお祈り致します。今後の会の発展を心から念じております。(平成17年1月6日付信)

来年は真田町も上田市と合併、真田町の会はどうなるのでしょうか。

年を重ねる度に故郷がなつかしくなります。幼なじみ、級友、そして多くのふるりの皆様とお会い出来るのを楽しみに出席させて頂いたいただきます。(平成17年5月16日付信)

16 尾崎仲治(真田)

私は今胃がんで入院をして居ますので欠席をします。よろしく

17 海瀬弘司(曲尾)

今年は東京に来て50年です。元気にやっています。

18 海瀬 孟(曲尾)

毎回ご案内有難うございます。今年も欠席ですが、郷里の皆様益々のご健闘を祈っております。

19 海瀬益男(曲尾)

相変わらず病氣療養中で欠席させて頂いたきます。新上田市になったら東京真田町の会はどうなるのでしょうか？！

20 神林公三郎(竹室)

急に都合が出来て欠席を致し、悪しからずご容赦下さい。次回は出席を希望しております。

21 木島豊福(真田)

合併が決まるようですが真田町の会の存続に頑張ってください。

22 野間亮子(横尾・北沢)

まだまだ忙しくて、参加できる環境になりません。おたより楽しく読ませて頂いています。

23 中村洋子(田中・木下)

元気な内にと時間を作ってお出かけしています・・・

24 久保定春(横沢)

妻のかつこさんが出席します。

25 久保新一(角間)

理念なき統合で、いよいよ真田町も消えることとなりますが、この会は存続するのでしょうか。旧長村中学最後の卒業生にとつて、真田町の会はいまひとつなじめないままで終わつたような気がします。今年で定年ですが、しばらくは仕事を続ける予定です。ご盛会を祈ります。

26 久保宗一(横沢)

体調悪く失礼します。御盛会をお祈りいたしております。

27 倉島今朝二(角間)

昨年はほぼ半世紀ぶりの友に出逢う事が出来ました。これも真田町の会のお陰です。今年もどんな出逢いがあるか楽しみにしています。

28 倉島茂一(角間)

体調不良の為欠席します。

29 倉島忠好(上原)

皆様おからだ第一になさってお過ごし下さい。

30 倉島安三(角間)

役員の皆様ご苦勞さまで。体調不良の為本年も欠席させて頂きます。

31 高柳キヌ(横沢・栗林)

6月11日(土)姪の結婚式の為に連日の外出は少し無理と考えますので欠席を致します。次回を楽しみにして居ります。役員の皆様には御苦勞様です。

32 中山栄子(菅平・小林)

いつも御連絡いただき有りがとうございます。御無沙汰ばかりで申し訳ありません。先日菅平出身者だけ、ログスキーに集り、50年の空白がそこかんたんに埋まるものでもないことが分かりましたが、楽しい一時を過ごしました。

33 小林重利(入軽井沢)

体調が思わしくありませんので欠席させて頂きます。ご盛会をお祈りいたします。

34 小林孝雄(曲尾)

3月末で引退し、漸く開放されました。

35 小林孝子(萩)

当日は甥の結婚式の為に出席できません。御盛会をお祈り致します。

36 倉持信郎(入軽井沢・小林)

第17回東京真田町の会、会報の送付ありがとうございます。来年は是非とも出席したいと思ひます。

(16年12月28日付信)

体調にも特別な変化もなく日々を送っています。家族の事では内孫、外孫大学生以上が3名、高校生3名残りの5名は中学生、小学生と祝金が必要とするのでアルバイトをしています。(17年4月21日付信)

37 福島愛子(中組・斉藤)

遅くなりましてすみません。楽しみにしておりますので、よろしくお願い致します。

38 岡村貞江(中組・斉藤)

青葉の季節になってまいりました。しらかば通信なつかしく拝見いたしました。ありがとうございます。今年こそ総会に出席しようと思つておりましたが、6月12日はどうしても都合がつかず欠席させて頂きます。

39 坂口武久(下原)

定年退職し晴耕雨読の生活をしています。健康は良好です。(昭和15年生れ)

40 坂口 豪 (十林寺)

楽しい日が参ります今年は、と思ひ治療して其の内、其の内にはと思ひつつ、矢張り思ふ様に快復もなく非常に残念に思つて居ります。次回の事はわかりません。折角なれどあきらめるより外ありません。お気に掛けて下さり有りがたう御座ひます。(かな使い：原文のまま)

41 並木千枝(下横道・坂口)

いつもお世話様になって居ります。

年会とお払いします。皆様に会える事を楽しみにしております。

42 森田文子(下原・坂口)

役員の方々ご苦勞様です。広島県尾道市から再度夫の転勤で千葉県に戻りました。瀬戸内の風景がなつかしいのですが、今後は関東の観光等しようと思つています。良い所を教えて下さい。

43 坂口雅彦(真田)

4月23日に弟夫婦(伊那在住)に長男・瑞季が誕生しました。5月8日に妻が仕事で小泉総理のロシア訪問に同行してまいりました。

44 小林公江(大日向・塩沢)

皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

45 塩沢博男(大日向)

盛会をお祈りいたします。

46 志野米子(大日向)

役員の皆様、大変お世話になっております。今年は6月12日は行事が重なつてしまい欠席します。

○総務省管轄の統計事務研修があり、そちらの方へ出席しなければなりません。(10月1日からの国勢調査関係)

○市の健康まつり。これは市の運動推進委員をしているため。忙しさに追われているのも健康である故と感謝しています。どうぞ皆様もお体に充分気をつけて頑張つて下さいませ。次回お逢い出来る日を楽しみにしております。

47 柴田小夜子(菅平・市村)
いつもお世話様です。宜しくお願
いいたします。

48 豊田喜代江(横尾・渋沢)
夫婦でスポーツジムへ筋力トレ
ニングに通い、体力、健康維持のた
め、運動をしています。

49 清水清晴(中横道)
出席したいのですが耳が不自由にな
り欠席します。総会は大変ですが
盛大に挙行されますよう御願ひ致し
ます。

50 山口久子(曲尾・清水)
いつもいつも有りがとうございま
す。4月半ば、八重桜咲き始めてい
ます。とてもきれいです。

51 杉崎寿三男(菅平)
急用が入り欠席となります。皆様
によりしく。

52 鈴木郁夫(横尾)
今年の2月には三越本店でのオル
ゴールフェアに於いてオートマタ
製作実演、展示即売会が実施できま
した。

53 関口偉夫(曲尾)
私用のため出席できず、誠に申訳
ございません。

54 関谷トヨ子
東京真田町の会の会員でありまし
た亡夫関谷義久の葬儀の際には、ご
多忙の中参列して頂きありがとうございました。
残された私が余り丈夫
でない方なので、未だに皆様にお礼
も出来ずマゴマゴしております。関

谷の代りに入会させて頂きます。よ
ろしくお願いいたします。

55 関谷道義(戸沢)
御蔭様で元気でやっております。

56 鈴木民子(竹室・高寺)
懇親会の準備、苦労様です。6月

はいろいろ予定が入っており、他の
用事と重なってしまいました。昨年
も急用が出来出席できませんでした。
2年続けて欠席になってしまい、大
変残念に思っております。

57 川内知恵子(竹室・高寺)
姉の7回忌で本原へ行つて参りまし

た。私もだんだんと年を重ねてもう
真田町の会に出席出来ませんので宜
しく。

58 堀内 操(竹室・高寺)
皆勤賞を頂けるほど毎年出席して

おりましたが、今回は私用と重なり、
欠席させて頂きます。会が盛大であ
りますように。

59 田中恒夫(横尾)
お蔭さまで元気で居ますが、当日

はちよつと都合が悪く失礼致します。

60 塚田健次・加代子(横尾)
今年こそは...と思ひながら日程の

調整をしていたら、締切の20日を過
ぎてしまい、又、次回の参加を楽し
みにしております。

61 塚田 靖(菅平)
この所、少々体調が悪くなかなか

思うように仕事も出来ません。ぼつ
ぼつリタイア(大学の勤務すること
になるかと思っています。

62 桜井和子(下横道・中沢)
元気で。

63 山本道子(大庭・成沢)
天候不順の此の頃、体調をくずさ
ないようにと毎日頑張つて居ります。

役員の皆様お世話になっておりま
す。今年も出席させて頂きます。

64 山口末子(穴沢・西牧)
体調悪し

65 橋詰吉万雄(中組)
会長はじめ役員の皆様毎回お世話

様です。最近家庭菜園で癒しなが
ら、ある団体の広報部として、ホー
ムページ作りの為勉強中です。皆さ
んにお会い出来るのを楽しみにして
おります。郷里も合併後は上田市に
熊が出没の記事が...

66 花岡節雄(横尾)
元気でやっております。皆様によろ
しく。

67 半田喜章(中横道)
政令指定都市になり郵便番号の変

更と区が追加されています。

68 半田幸一(田中)
幹事の皆様御苦勞様です。此の処

欠席を余儀なくされましたが、今回
は出席させて頂きます。何卒宜しく
御願ひ申し上げます。御連絡おくれ
て申訳ございません。

69 滝沢富志子(下横道・半田)
若い皆様、真田会の発展のためご

活躍くださいますようお願いいたし
ております。私も老体をいたわりな
がら元気でおります。

70 半田幸弘(中横道)
81才になりました。益々元気で
菅平には毎月行きます。

71 井上かつよ(田中・堀内)
萌黄色の鮮やかな季節になりました。

役員の皆様御苦勞様です。今年
もお世話になりますが、宜しくお願
ひ致します。

72 所 けさい(中横道・堀内)
学研の漢字源の中に難読として「
傍陽そえひ」を見つけました。ルビは「そ
えひ」ではありませんでしたが、懐かし
さいっぱいでした。欠席で申しわけ
ありません。

73 堀井けさ子(田中・堀内)
桜も散り、新緑の候になりました
ね。役員の皆様、いつも御苦勞さま
です。真田町も上田市と合併、町で
なくなってしまうとの事、残念でな
りません。これも世の移りかわりか
も知れませんがね。

74 久野けさ志(中横道・堀内)
何時も役員の皆様お世話に成りま
す。私も元気で区の老人施設へ週何
日かボランティアで行つて居ります。
総会には都合で欠席しますが、出席
の皆様によりしくお伝え下さい。

75 堀内耕吾(下横道)
会報日本ダボスを送付頂き有難う
ございました。今年は所用の為出席
できませんでした。来年は必ず出席
し皆様にお会いできる事を楽しみに
しております。

76 堀内茂雄(中横道)

元気です。幹事御苦勞様です。

77 堀内 福(下横道)

元気です。

78 堀内寿美(上横道)

宜しく願います。市ヶ谷アルカディアへ内金として10万円5月2日に納入しました。

79 堀内寅次(中横道)

いつもありがとうございます。

新会員をご紹介します。ご案内して下さい。

〒174-0061 東京都板橋区大原町 38

3 堀内輝男(上横道)

TEL03-3967-0164

80 堀内 幸(下横道)

今回もよろしく願います

81 金子吉己(下横道・堀内)

昨年は欠席してしまいました、今年は皆様にお会い出来るのを楽しみにしています。

82 堀篁道子(中横道・上原)

元気になっています。県人会も行事が多いようですが、こんな事もあったのかと思うものもあります。広報を読まないのでしょうか、例えばゴルフコンペ、マレットゴルフ等、もう少し声掛けがあれば参加者も増えるのでは。上手な人だけの行事では県人会親ぼくの趣旨から外れるのでは？(真田町の会への注文でしょうか?)

83 桃井俊江(戸沢・牧内)

故郷のなつかしい便りをいつもあ

りがとうございます。塚田恒雄さんの御冥福をお祈りしております。今は上田市大屋に住居を移しておりますので、退会させて頂きます。お世話になりました。

84 牧内 操(萩)

会計理事、堀内寿美様 会費滞納して申し訳ありませんでした。まとめて納入します。14、15、16、17、18年までに充当して下さい。

その内広告も出します。(17年1月18日付信)

念願だった「傍陽の実家」を改築しました。現在「仕事場」は川口(埼玉)ですが「住居」はつくば(茨城)です。(17年4月16日付信)

85 正木とみ子(菅平)

会長さん初め皆様お世話様です。

宜しく願います。

先日は弔電をいただきありがとうございます。6月の会には出席させて頂きます。

86 岩崎みち子(菅平・正木)

所用あり総会終了後退去したいので懇親会は失礼させて頂きます。悪しからず。小生76才心身共に健全、今後共宜しく願います。

87 松尾 昭(真田)

日々好日に過ごしております。

88 若林芳子(真田・松木)

日々好日に過ごしております。

89 丸山廣義(曲尾)

風薫る五月とか、若葉のいゝ季節です。所で過日は東京真田町の会の御案内ありがとうございます。返

信用のハガキが同封されていませんでしたので、本状にて出席の旨御返事致します。いつもお世話になります。よろしくお願いします。

90 三井 周(大庭)

返事がおくれてしまい申し訳ありません。

91 三井 毅(大庭)

役員の皆様にはいつもながらご苦勞様です。都合により欠席の皆様にお目にかかることが出来ませんが、お目にかかっています。ご盛会でありますよう祈っております。

92 佐藤久司(萩・三井)

何時も日本ダボスを有難うございます。去年分も一緒に送金します。これからも宜しく御願します。

93 三井芳郎(大庭)

帰郷後一年半が過ぎました。何かと所用に追われて多忙な毎日を過ごしております。

94 宮崎十人重(菅平)

法事と重なり、申訳ありませんが今回は欠席させて頂きます。よろしくお願致します。

95 宮下毅士(真田)

6月12日はマラソン大会に出る予定あり、欠席します。92才の母と4人の孫が毎日のように来て賑やかです。

96 壬生とりよ(戸沢・宮島)

年を重ねる毎に生まれ育った故郷を懐かしく想い出されます。会の繁栄を心より願っております。

97 宮本 優(大日向)

予定が入っており申し訳ありませんが欠席させていただきます。

98 吉川栄子(中組・武捨)

幸せに暮らしております。

99 武捨昭二(中組)

都合悪く出席できず申し訳ないです。

100 依田久美枝(菅平・村本)

四月にしゃくなげの会に初めて出席させて頂き、この会が有る事を知りました。どうぞ宜しく願います。

101 森本幹生(入軽井沢)

今年は春がいつべんにきた様です。温暖化時代なのでしょう、皆様健康で盛会であります様に!!

102 八木五郎(中横道)

4月6日上野の山、東京都美術館に真田中学校昭和34年度卒業生12名、信州新町より羽賀先生も絵画鑑賞と花見宴、一次二次の親睦会も盛上ってしばし幼少にタイムスリップ、癒しの一時でした。

103 矢島収・榮(真田・松木)

年会費うっかり大変遅くなりまして。宜しく願います。

104 佐藤ムネ子(真田・矢島)

いつもお世話になります。孫(4才)とプールに通っており、又日本舞踊や時々旅行にも参ります。本年も出席させて頂きます。宜しく願います。

105 柳沢喜二郎(萩)

毎回ながら最初の「乾杯」の音頭の御指名を頂き感謝しておりますが、今年から清新はつらつの若い人にお願ひしてもらいたいと思います。御一考を願います。

106 松井志づ江萩・柳沢

皆様にお会いするのを楽しみにして居ります。

107 宮田マキエ(戸沢・柳沢)

体調を悪くしており、お許し下さい。皆様によろしく、又会う日まで

:

108 佐藤昌江(萩・柳沢)

又皆様にお目にかかれる事、嬉しく思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

109 柳沢 實(萩)

役員皆様お世話様。

4月6日一泊にて小諸市菱野温泉の入浴と自然を楽しみ、年一回の同級会を満喫して来しました。

尚、6月12日の総会、懇親会

心はずむ思いです。

110 柳沢保治(真田)

元気でやっております。塩沢会長御苦労様です。

当日は横浜市内の外国人対象の日本語教室の授業担当のため、誠に残念ですが欠席します。

111 北澤りん(上横道・柳沢)

おかげさまで、毎日元気で家事に追われています。都合で出席できま

せんが御盛会を心よりお祈り申し上げます。

112 斉藤民子(下塚・山浦)

御盛会をお祈り申し上げます。しらかば通信はふるさとの様子を垣間見る事が出来、楽しませていただいています。

113 山浦教代(下塚)

変わりなくボランティア活動に励む喜びの日々でございます。又姉兄妹仲良く至福をいただいていたの毎日はとても感謝しております。

皆々様の御健康と御発展を心よりお祈りいたします。

114 山口和明(真田)

平成17年には東京真田町の会の総会に参加したいと考えております。昔の「なつかしの友」と話し合いた

いので健康に留意して過ごしたい、参加できれば幸せです。真田会の益々の御発展を願っております。

115 椎名己津男(横沢・山口)

緑の大変美しい季節となりました。私こと少し体調をくずしまして参加できず残念に思っております。役員

の皆様方には感謝と共におわび申し上げます。会員の皆様によりしくお

伝えください。

116 山宮敏男(入軽井沢)

いつもお世話になっております。残念ですが都合により出席出来ません。皆様によりしく。元氣です。

117 浅水みち子(入軽井沢・山宮)

真田町は【美しい日本の歩きたく

なるみち500選】にえらば

れています。今年はずひ歩き

たいです。真田一族のロマン

と菅平高原の道20km

118 安田美智子(入軽井沢・山宮)

新緑が美しく過ぎ易い季節になりました。生涯大学で自分の趣味を生かし花を愛し

グランドゴルフで運動不足を解消し元気にしています。六月

十二日が楽しみです。毎年お世話下さる役員の方々に心

よりお礼申しあげます。

119 横沢武典(大畑)

ゴルフではお世話様でした。よろしくお願ひ致します。

120 横沢優佳(大畑)

先月のゴルフでは大変お世話になりました。今後お迷惑をおかけすると思いますが、

宜しくお願ひ致します。

121 横沢義雄(大畑)

4月24日には上田さなだ祭りに東京上田会の皆さんと参加し、真田幸村にゆかりの有

る、真田町の真田氏歴史館及び真田温泉に行つて来ます。

122 横山清美(横尾)

今年度限りで脱会をさせて頂きます。

123 若林 豊(赤井)

元気でおりますが申し訳ありません、都合により欠席します。

~~~~サイエンスアイ：ご先祖様が21億人、子孫も21億人…あなたは中継点にいるのです~~~~

埋め草記事の第二弾です。誰にもかならず両親があり、その両親にもそれぞれ両親があります。このように血のつながったご先祖様は一代遡るごとに2倍に増えていきます。代変りの平均年数を33年とすると1000年前の直系のご先祖様は $1000/33 \div 30$ で30代前に当たりますが、その人数は重複を無視すると2の30乗 $\div 10$ 億7千万人になります。本人の両親から29代前までの直系のご先祖様の合計の人数は30代前一代の人数より2人少ないだけなので、1000年間のご先祖様の総数は重複を無視するとなんと21億人強になります。仮に私の21億人のご先祖様の誰かが“DNA”の継承を怠ったとすると現在の私は存在し得ないことになります。つまり私が誕生する為には1000年間に21億人ものご先祖様のお世話になったのです。このことを考えると、一度だけの人生を慎重に、そして丁寧に生き、充実させなければと心から思います。本人に2人の子供があり、その子供がそれぞれ2人の子供を持つとして、同じように1000年後の血のつながった直系の子孫の人数を考えるとやはり21億人強になります。従って1000年単位で考えると人は誰でも皆、21億人のご先祖様が延々と継承してきた血を21億人の子孫に伝える中継点に立っていると云えます。一度しかない人生ですが、延々と受け継がれてきたDNA継承の一員として機能するのは人生の大きな意義であり本当に大事な仕事と思えるのですが如何でしょうか。このことを若い世代の皆さんにじっくり考えて欲しいと思います。(武捨衛人記)



## ～会員消息～ (敬称略)

〔住所不明の新入会員(\*印)の連絡先をご存知の方はお手数ながら山口事務局長までお知らせ下さい〕

## ＜新入会員＞

|            |           |                    |                  |       |
|------------|-----------|--------------------|------------------|-------|
| 飯島 啓三      | 〒333-0865 | 埼玉県川口市伊刈 813       | TEL048-266-4825  | (中組)  |
| 市野 つぎ子(三井) | 〒363-0001 | 埼玉県桶川市加納 122-11    | TEL048-774-7513  | (萩)   |
| 川上 隆康      | 〒277-0066 | 千葉県柏市中新宿 3-14-13   | TEL0471-39-6870  | (菅平)  |
| 久保 かつ子     | 〒134-0084 | 東京都江戸川区東葛西 4-19-5  | TEL03-3869-2519  | (横沢)  |
| 塩沢 英巳      | 〒242-0002 | 神奈川県大和市つきみ野 3-5-49 | TEL046-275-9463  | (大日向) |
| 高橋 とみ子     | 〒350-1142 | 埼玉県川越市藤間 79-11-201 | TEL049-245-0746  | (大日向) |
| 豊田 陽子      | 〒181-0011 | 東京都三鷹市井口 3-14-34   | ロイヤルコート武蔵境 108 号 | (本原)  |
| 中村 えつ(橋爪)  | 〒134-0003 | 東京都江戸川区春江町 5-24    | TEL03-3689-7635  | (戸沢)  |
| 古市 礼子      | 〒150-0012 | 東京都渋谷区広尾 5-1-21-4D | TEL03-5485-0866  | (本原)  |
| 堀内 輝男      | 〒174-0061 | 東京都板橋区大原町 38-3     | TEL03-3967-0164  | (上横道) |
| 牧内 泰男*     |           |                    |                  | (萩)   |
| 松本 龍雄      | 〒386-0002 | 長野県上田市住吉 641-14    | TEL0268-22-7641  | (大畑)  |
| 横沢 優佳      | 〒351-0007 | 埼玉県朝霞市岡 3-10-50    | TEL048-461-5393  | (大畑)  |

## ＜住所変更＞

|            |           |                      |                 |       |
|------------|-----------|----------------------|-----------------|-------|
| 上ノ山 勝信(堀内) | 〒177-0041 | 東京都練馬区石神井町 4-18-16   | TEL03-3904-5166 | (三島平) |
| 菅原 節子(西牧)  | 〒999-8301 | 山形県飽海郡遊佐町舞鶴 137-14   |                 | (穴沢)  |
| 佐藤ムネ子(矢島)  | 〒970-8026 | 福島県いわき市平字権現塚 34-5    | 川花ハイツ A101      | (真田)  |
| 半田 喜章      | 〒330-0046 | 埼玉県さいたま市浦和区大原 2-9-20 | TEL048-832-6538 | (中横道) |
| 半田 武男      | 〒350-1174 | 埼玉県川越市柏原 1-6-14      | TEL049-232-1984 | (三島平) |
| 宮崎 義昭      | 〒339-0041 | 埼玉県さいたま市岩槻区村国 637    | TEL048-798-1469 | (中原)  |
| 森田 文子(坂口)  | 〒290-0006 | 千葉県市原市若宮 3-7-10      | TEL0436-43-1553 | (下原)  |

＜退会＞ 長い間、会に御協力下さり有難うございました。くれぐれも健康にご留意下さい。

坂口 正男・佐藤 公一・清水 輝夫・住吉 きわ・関 弘茂・富田 久子・橋詰 雄治・本庄 喜美子・松尾 益男・桃井 俊江

＜逝去＞ 会員一同、心よりご冥福をお祈り致します。

川島 真・堀内 しめ子・堀内 基之・牧内 正志

## ＜転居先不明＞

坂口 弥・鈴木 信孝・塚田 譲・村山 紀夫

## 次回総会の予告

平成18年の総会、懇親会は6月11日(日)、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催の予定です。大勢の会員の皆様のご出席を頂きますようお願い申し上げます。

詳しくは5月に発行の「しらかば通信」第10号でお知らせいたします。

## 年会費納入のお願い

平成17年度の年会費千円を未納の方は、同封の郵便振替用紙にてお振込み下さい。振り込み料は無料です。よろしくお願い致します。

## 広告御礼

日本ダボス第18号の発行にあたり広告をお願い致しましたところ、大勢の皆様のご協力を頂きました。大変有難く、厚く御礼申し上げます。

## 新会員ご紹介のお願い

会員の皆様にはいつも会の運営にご協力頂き誠に有難うございます。会員相互の出会いと親睦、そしてふるさと真田町との交流の親密化を目的に誕生した東京真田町の会も、一七年余りの歴史を刻み先輩役員のご努力、会員の皆様のご協力、そして真田町当局のご支援により一人前の同郷会に成長しつつあり、ご同慶の至りでございます。

この東京真田町の会が更に充実し、発展し続けるためには会員の増加が何にもまして重要と思われまします。皆様の友人、知人の中に東京真田町の会の会員に推薦できる方が居られましたら、会長または役員まで是非ご一報頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

連絡先 塩沢和政

〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田一〇七四―三七  
 ☎・FAX 047-450-3348

## 平成16年度 決算報告書

H16年4月1日～H17年3月31日

(単位：円)

| 収入の部     |            |            | 支出の部      |            |            |
|----------|------------|------------|-----------|------------|------------|
| 科 目      | 予 算        | 決 算        | 科 目       | 予 算        | 決 算        |
| 通常年会費収入  | 650,000円   | 258,500円   | 総 会 費     | 1,200,000円 | 969,116円   |
| 総会懇親会費収入 | 1,200,000円 | 955,000円   | 会 報 発 行 費 | 500,000円   | 385,140円   |
| 真田町補助金   | 300,000円   | 300,000円   | 事 業 費     | 500,000円   | 54,841円    |
| 広 告 収 入  | 750,000円   | 485,000円   | 事 務 通 信 費 | 400,000円   | 235,743円   |
| 寄付金等収入   | 150,000円   | 7,970円     | 印 刷 費     | 200,000円   | 51,785円    |
| 利息等雑収入   | 87,653円    | 11円        | 会 議 費     | 250,000円   | 105,135円   |
|          |            |            | 渉 外 費     | 150,000円   | 121,980円   |
|          |            |            | 交 通 費     | 100,000円   | 8,240円     |
|          |            |            | 雑費・手数料    | 50,000円    | 12,665円    |
|          |            |            | 予 備       | 150,000円   | 円          |
| 当期収入合計   |            | 1,956,481円 | 当期支出合計    |            | 1,944,945円 |
| 前年繰越額    | 362,347円   | 362,347円   | 次期繰越額     |            | 374,183円   |
| 合 計      | 3,500,000円 | 2,318,828円 | 合 計       | 3,500,000円 | 2,318,828円 |

上記の通り収支決算報告いたします。平成17年3月31日 会 計 堀内 寿美 印  
 上記の決算報告書は適正かつ真実であるものと認めます。 監 事 深町 共栄 印  
 監 事 小林 正子 印

## 平成17年度事業計画

- ① 第18回総会及び懇親会の開催（平成17年6月12日）
- ② 会報「日本ダボス」第18号の発行
- ③ 広報紙「しらかば通信」の発行
- ④ ホームページの運営
- ⑤ 会員旅行会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等会員相互の親睦をはかる行事の実施
- ⑥ ふるさと訪問の実施
- ⑦ ふるさと特産品の宅配協力
- ⑧ 真田町との交流促進のため、各種文化・スポーツ行事の実施と参加
- ⑨ 会員の店マップの発行
- ⑩ その他

## 平成17年度収支予算

平成17年4月1日～平成18年3月31日

## 「東京真田町の会役員名簿」

(平成17年12月25日現在)

| 収入の部     |           | 支出の部      |           | 職 名   | 氏 名                                                  |
|----------|-----------|-----------|-----------|-------|------------------------------------------------------|
| 科 目      | 金 額       | 科 目       | 金 額       | 会 長   | 塩沢和政                                                 |
| 通常年会費収入  | 650,000   | 総会懇親会費    | 1,200,000 | 副 会 長 | 中島正江 飯島慶三郎<br>山口元彦                                   |
| 総会懇親会費収入 | 1,200,000 | 会 報 発 行 費 | 500,000   |       |                                                      |
| 真田町補助金   | 300,000   | 事 業 費     | 500,000   | 理 事   | 監 事 深町共栄 小林正子                                        |
| 広 告 収 入  | 750,000   | 事 務 通 信 費 | 400,000   |       | 事務局長 (山口副会長兼務)                                       |
| 寄付金等収入   | 150,000   | 印 刷 費     | 200,000   |       | 会計理事 堀内寿美                                            |
| 利息等雑収入   | 75,817    | 会 議 費     | 250,000   |       | 岩崎みち子 荻原啓治 金子 誠<br>木南和世 柴田小夜子 鈴木邦子<br>堀内 福 堀内 幸 武捨衛人 |
|          |           | 渉 外 費     | 150,000   | 顧 問   | 小林孝雄 清水清晴<br>三井芳郎                                    |
|          |           | 交 通 費     | 100,000   |       |                                                      |
|          |           | 雑費・手数料    | 50,000    |       |                                                      |
| 前年度繰越金   | 374,183   | 予 備 費     | 150,000   |       |                                                      |
| 収入合計     | 3,500,000 | 支出合計      | 3,500,000 |       |                                                      |



祝

# 東京真田町の会

—会報18号—

人と地球に思いやりある環境づくりを目指して  
資源愛護と環境保全は企業の責任

一般貨物運送事業、リサイクル推進事業、一般・産業廃棄物収集運搬

ISO9001・ISO14001 認証取得

H14環境保全功労環境大臣賞受章

東京都知事賞 受賞・板橋区環境保全優良事業所

## みすゞ興業株式会社

代表取締役 荒木 廣之 (真田町下原出身)

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2-10-7 TEL 03(3966)2422 FAX 03(3966)2423

自宅 TEL 03(3965)4692

菅平産業株式会社 代表取締役

菅 平 高 原 温 泉 代表取締役

入間ガス株式会社 取締役会長

西北産業株式会社 代表取締役

## 半田幸弘

(中横道出身)

〒359-0021 埼玉県所沢市東所沢4-3-4

電話 04-2945-2425



ブラザ店のご案内

URL : <http://www.rogovski.co.jp/>

E-mail : [rogovski@rogovski.co.jp](mailto:rogovski@rogovski.co.jp)

副社長  
調理部長

長 屋 京 子

セントラル  
キッチン

東京都世田谷区弦巻5-14-25

☎03(3428)4194 FAX03(3426)4466

ゆったりとしたくつろぎ

アットホームなやすらぎ

シック&カジュアル

ビルの最上階は最高のロケーション。窓際のお席では  
眼下に渋谷の街並みが広がります。

20~25名様程の着席パーティーに最適なコーナーが  
ございます。是非種々の会合にご利用下さい。

室料(貸切り料)、サービス料  
いっさい無し

AM11:00~PM10:00 (ラストオーダーPM9:30) 年中無休

PHONE 03(3463)3665

渋谷駅南口バスターミナル前

渋谷東急プラザ9F・味の名店街

祝

## 東京真田町の会

—会報18号—

## 東京真田町の会

副会長 飯島 慶三郎

(下原出身)

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町 2-33-18

☎ 042-221-8594 携帯 090-3514-3502

FAX 042-221-8594, 042-248-8833

土地・建物・測量・登記

## 飯嶋測量事務所

土地・家屋調査士 飯嶋 義道

(中組出身)

〒230-0072 神奈川県横浜市鶴見区梶山 2-38-11

☎ 045-581-0324 FAX 045-571-8432

## 東京真田町の会

理事 岩崎 みち子

(菅平出身)

〒110-0003 東京都台東区根岸 3-21-2

☎・FAX 03-3873-1594

## 東京真田町の会 理事

一級建築士 荻原 啓治

(四日市出身)

〒168-0063 東京都杉並区和泉 4-42-32-301

☎ 03-3315-5930 携帯 090-8442-2317

FAX 03-5305-3755

## 東京真田町の会

理事 金子 誠

(田中出身)

〒364-0035 埼玉県北本市西高尾 4-156

☎・FAX 048-591-4728

## 東京真田町の会

理事 木南 和世

(中横道出身)

〒276-0031 千葉県八千代市八千代台北 7-9-9

☎ 047-482-4528

## 東京真田町の会

理事 小林 正子

(下横道出身)

〒349-0217 埼玉県南埼玉郡白岡町小久喜

776-11

☎・FAX 0480-92-1084

ビューティサロン テラ

## 東京真田町の会

理事 柴田 小夜子

(菅平出身)

〒155-0031 東京都世田谷区北沢 1-32-13

☎・FAX 03-3467-4035

## 東京六二会戦友会会計理事

## 東京真田町の会

顧問 清水 清晴

(中横道出身)

〒201-0002 東京都狛江市東野川 3-12-2

☎・FAX 03-3489-0763

## 東京真田町の会

理事 鈴木 邦子

(横尾出身)

〒174-0052 東京都板橋区蓮沼町 17-12

☎・FAX 03-5970-6969

## メナード化粧品等々力駅前代行店

## 東京真田町の会

副会長 中島 正江

(戸沢出身)

〒158-0091 東京都世田谷区中町 4-35-17E

☎・FAX 03-3702-1385

埼玉工業大学工学部電子工学科教授

## 東京真田町の会

理事 深町 共栄

(田中出身)

〒366-0052 埼玉県深谷市上柴町西 5-7-82

☎・FAX 048-572-7150



祝

## 東京真田町の会

—会報18号—

|                                                                                                                                      |                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>齋藤指圧治療院</p> <p><b>齋 藤 勇 一</b><br/>(真田出身)</p> <p>〒156-0043 東京都世田谷区松原 5-56-10<br/>シャポール東松原 301 号<br/>☎ 03-3322-6622</p>             | <p>株式会社東都財務情報センター<br/>堀内税務会計事務所</p> <p><b>堀 内 茂 雄</b><br/>(中横道出身)</p> <p>〒130-0002 東京都墨田区業平 4-9-4<br/>☎ 03-3625-2291 FAX 03-3621-0164</p>           |
| <p>東京真田町の会</p> <p>理 事 <b>堀 内 福</b><br/>(下横道出身)</p> <p>〒350-1308 埼玉県狭山市中央 3-7-L203<br/>☎ 04-2958-1578</p>                             | <p>東京真田町の会理事</p> <p>司法書士 <b>堀 内 寿 美</b><br/>(上横道出身)</p> <p>〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-20-19<br/>東洋ビル 402 号<br/>☎ 03-3379-9182 FAX 03-3379-8714</p>       |
| <p>東京真田町の会</p> <p>理 事 <b>堀 内 幸</b><br/>(下横道出身)</p> <p>〒235-0033 神奈川県横浜市磯子区杉田 7-20-18<br/>☎ 045-773-6733</p>                          | <p>東京真田町の会</p> <p>顧 問 <b>三 井 芳 郎</b></p> <p>〒386-2203 長野県小県郡真田町傍陽 11510<br/>☎ 0268-73-2616</p>                                                      |
| <p>東京真田町の会</p> <p>理 事 <b>武 捨 衛 人</b><br/>(中組出身)</p> <p>〒359-1145 埼玉県所沢市山口 5040, 39-5-405<br/>☎・FAX 04-2949-4776 携帯 080-5689-7917</p> | <p>国画水墨院理事<br/>(元)日本選抜美術家協会常任理事審査員<br/>国画院会員</p> <p><b>森 本 幹 生</b><br/>(入軽井沢出身)</p> <p>〒211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町 1-6-8<br/>☎ 044-733-0267</p>           |
| <p>御殿場市・裾野市・小山町<br/>長野県人会</p> <p>顧 問 <b>柳 沢 喜三郎</b><br/>(萩出身)</p> <p>〒412-0045 静岡県御殿場市川島田 748-2<br/>☎ 0550-83-0081</p>               | <p>新お茶の水法律事務所<br/>東京真田町の会副会長</p> <p>弁護士 <b>山 口 元 彦</b><br/>(横沢出身)</p> <p>〒113-0033 東京都文京区本郷 2-13-10 湯浅ビル 5F<br/>☎ 03-3815-3344 FAX 03-3815-3341</p> |

.....東京真田町の会では“ホームページ”を開設しています.....

URLは<http://www4.ocn.ne.jp/~soehi/index.html>です。またふるさと真田町のホームページからもリンクされています。こちらのURLは <http://www.town.sanada.nagano.jp/>です。真田町のホームページを開き、右の上側にある「リンクのページ」をクリックし 東京真田町の会のホームページへをクリックすると HP がオープンします。お暇な折に真田町や当会の HP を訪れて見て下さい。

祝

東京真田町の会

—会報18号—



# 勝田電設工業株式会社

電気設備工事設計施工

国土交通大臣許可（特定）第3065号

会長 塩 沢 和 政（大日向出身）

東京真田町の会 会長

本 社 〒132-0032 東京都江戸川区西小松川町 37 番 2 号 北関東支店 〒305-0062 茨城県つくば市大字赤塚 610 番 3 号  
 Tel・03(3652)8676 FAX・03(3656)3360 Tel・0298(36)4737 FAX・0298(36)4549  
 東関東支店 〒132-0032 東京都江戸川区西小松川町 37 番 2 号 銀座営業所 〒104-0031 東京都中央区京橋 3 丁目 3 番 14 号京橋 AKビル 7F  
 Tel・03(3652)8676 FAX・03(3655)8328 Tel・03(5202)2558 FAX・03(5202)2557  
 千葉事業所 〒273-0018 千葉県船橋市栄町 2 丁目 3 番 10 号 E-mail : densetsu0@katsuta-g.com  
 Tel・047(437)8551 FAX・047(495)5755 HP : http://www.katsuta-g.com/

・・・・・・・・・・投稿・寄稿のお願い・・・・・・・・・・

日本ダボス 19 号・しらかば通信 10 号への投稿・寄稿をお待ちしております。感想文・紀行文・思い出・近況など、日本ダボスは 2,400 字以内、しらかば通信は 800 字以内で、ご連絡は次の担当理事までお願いします。

広報担当理事 武捨 衛人

〒359-1145 埼玉県所沢市山口 4050, 39-5-405

Tel & Fax : 04-2949-4776 mail:m\_musya@yahoo.co.jp

## 編集後記

『日本ダボス第一八号』を本日お届け致します。

つい最近定年を迎えたばかりの気持ちで居りましたが、先月末に現代式の古希満七〇才を迎えてしまいました。宇宙の壮大さ、生物進化論の明かす生命誕生以来の生命体の輝かしい歴史にくらべて人の一生の短くはかない事がひしひしと感じられる此の頃です。

しかし、秋の夜長にお寄せ頂いた原稿をパソコンで編集し、珍しい表現にぶつかって広辞苑でチェックしたりしていると、最近に至福の一時と感じられるようになりました。

菅平のクロスカントリーコースに縁の深いアテネオリンピック女子マラソンのゴールドメダリストの野口みずき選手、そして二年間の苦難の道乗り越えて東京国際マラソンで見事に復活した高橋尚子選手、お二人に代表される大和なでしこの長距離陣は本当に立派で完全に脱帽です。

立派な原稿をお寄せくださった皆様、本当に有り難うございました。お陰様で十数頁で生まれ二十頁で長い間、推移して参りました日本ダボスも少しづつ頁がふえて一八号では三六頁と充実しました。

一八号からフォントを明朝に変更し、活字の大きさを一ポイント上げ、段数を五段から四段に変更して見ました。少しでも読み易くと考えておりますがご意見をお寄せ下さい。

末筆になりましたが、真田町役場情報政策課の中山様、本当にお世話になりました。心から御礼申し上げます。また、スタッフの皆様さん大変お世話になりました。（武捨記）



## 昭和20年代の巷に流れていた歌・唄の数々…

・・・昭和21年・・・

かえり船 田端義夫

波の背の背に 揺られて揺れて  
月の潮路の かえり船  
霞む故国よ 小島の沖じゃ  
夢もわびしく よみがえる

熱い涙も 故国に着けば  
うれし涙と 変わるだろ  
鳴ゆくなら 男のこころ  
せめてあの娘に つたえてよ

リンゴの唄 東京の花売娘  
悲しき竹笛 旅役者の歌  
みかんの花咲く丘 別れても  
青春のパラダイス  
朝はどこから

・・・昭和22年・・・

夜霧のブルース

ディックミネ  
青い夜霧に 灯影が紅い  
どうせ俺らは ひとりもの  
夢の四馬路か ホンキョの街か  
ああ 波の音にも 血が騒ぐ

花のホールで 踊っちゃいても  
春を持たない エトランゼ  
男同士の 相合傘で  
ああ 嵐呼ぶよな 夜が更ける

山小舎の灯 啼くな小鳩よ  
星の流れに 港が見える丘  
夜のプラットホーム  
とんがり帽子 長崎エレジー  
泪の乾杯 夢淡き東京  
誰か夢なき 懐しのブルース

・・・昭和23年・・・

湯の町エレジー 近江俊郎

伊豆の山々 月あわく  
灯りにむせぶ 湯のけむり  
ああ 初恋の  
君をたずねて 今宵また  
ギターつまびく 旅の鳥

あわい湯の香も 路地裏も  
君住む故に なつかしや  
ああ 忘れぬ  
夢を慕いて 散る涙  
今宵ギターも むせび泣く

異国の丘 東京ブギウギ  
君待てども 懐しブルース  
君忘れじのブルース  
憧れのハワイ航路  
三百六十五夜 シベリヤエレジー

・・・昭和24年・・・

青い山脈 藤山一郎/奈良光枝

若くあかるい 歌声に  
雪崩は消える 花も咲く  
青い山脈 雪割桜  
空のはて  
今日もわれらの 夢をよぶ

父も夢見た 母も見た  
旅路のはての そののはての  
青い山脈 みどりの谷へ  
旅をゆく  
若いわれらに 鐘が鳴る

アメリカ通いの白い船  
玄海ブルース 別れのタンゴ  
銀座カンカン娘 長崎の鐘  
かりそめの恋 悲しき口笛  
月よりの使者 薔薇を召しませ

・・・昭和25年・・・

白い花の咲く頃 岡本敦郎

白い花が 咲いてた  
ふるさとの 遠い夢の日  
さよならと 言ったら  
黙ってうつむいてた お下げ髪  
悲しかったあの時の  
あの白い花だよ

白い月が ないてた  
ふるさとの 丘の木立に  
さよならと 言ったら  
涙の眸でじっと みつめてた  
悲しかったあの時の  
あの白い月だよ

桑港のチャイナタウン あざみの歌  
東京キッド 水色のワルツ  
ダンスパーティーの夜  
星影の小径

・・・昭和26年・・・

高原の駅よ、さようなら

小畑 実

しばし別れの 夜汽車の窓よ  
云わず語らずに 心とこころ  
またの逢う日を 目と目で誓い  
涙見せずに さようなら

わかりましたわ わかってくれた  
あとは云うまい 聞かずにおくれ  
思い切なく 手に手をとれば  
笛がひびくよ 高原の駅

越後獅子の歌 私は街の子  
江の島悲歌 あの丘越えて  
上海帰りのリル ニコライの鐘  
ひばりの花売娘 トンコ節  
あこがれの郵便馬車  
連絡線の唄 あざみの歌

・・・昭和27・8年・・・

赤いランプの終列車

春日八郎

白い夜霧の 灯りに濡れて  
別れ切ない プラットホーム  
ベルが鳴る ベルが鳴る  
さらばと告げて 手を振る君は  
赤いランプの 終列車

遠い汽笛に うすれる影に  
一人佇む プラットホーム  
さようなら さようなら  
臉の奥に 哀しく消える  
赤いランプの 終列車

あゝモンテンルパの夜は更けて  
リンゴ追分 お祭りマンボ  
山のけむり ゲイシャワルツ  
あこがれの郵便馬車  
毬藻の唄 お俊恋唄  
雪の降る街を 花の三度笠  
別れの磯千鳥

・・・昭和28・9年・・・

落葉しぐれ 三浦洗一

旅の落葉が しぐれに濡れて  
流れ果てない ギター弾き  
のぞきも夢も はかなく消えて  
唄もなみだの 渡り鳥

酒にやつれて 未練にやせて  
男流れの ギター弾き  
あの日も君も かえらぬものを  
呼ぶな他国の 夜のかぜ

街のサンドイッチマン  
ふるさとの燈台 君の名は  
待ちましよう 雨降る街角  
高原列車は行く お富さん  
岸壁の母 あなたと共に

・・・昭和30年・・・

月がとっても青いから

菅原都々子

月がとっても 青いから  
遠回りして 帰ろう  
あのすずかけの 並木路は  
思い出の 小径よ  
腕を優しく 組み合って  
二人っきりで サ 帰ろう

月もあんなに うるむから  
遠回りして 帰ろう  
もう今日かぎり 逢えぬとも  
思い出は 捨てずに  
君と誓った 並木路  
二人っきりで サ 帰ろう

この世の花 おんな船頭唄  
かえりの港 りんご村から  
別れの一本杉 東京アンナ  
次男坊鳥 高原の宿  
小島通いの郵便船  
あの娘が泣いてる波止場

## 昭和30年代の巷に流れていた歌・唄の数々…

・・・昭和31年・・・

東京の人 三浦洸一

並木の雨のトレモロを  
テラスの椅子でききながら  
銀座むすめよ なに想う  
洩らす吐息にうるむ青い灯  
しのび泣く 恋に泣く  
東京の人

都のすがた 店々は  
変れどつきぬ恋の唄  
月の渋谷よ 池袋  
花は今日咲き 明日もかおるよ  
しのび泣く 恋に泣く  
東京の人

哀愁列車 愛ちゃんはお嫁に  
ここに幸あり リンゴ村から  
早く帰ってこ 好きだった  
若いお巡りさん 夜霧の第二国道  
東京の人さようなら  
哀愁の街に霧が降る

・・・昭和32年・・・

柿の木坂の家 青木光一

春には 柿の花が咲き  
秋には 柿の実が熟れる  
柿の木坂は 駅まで三里  
思いだすなア ふる里のヨ  
乗り合いバスの 悲しい別れ

春くりや 偲ぶ馬の市  
秋くりや 恋し村祭り  
柿の木坂の あの娘の家よ  
逢ってみたいなア 今もまおヨ  
機織りながら 暮らしていか

踊子 喜びも悲しみも幾年月  
港町十三番地 東京のバスガール  
未練の波止場 青春サイクリング  
チャンキおけさ お月さん今日は  
東京午前三時

・・・昭和33年・・・

有楽町で逢いましょう

フランク永井

あなたを待てば 雨が降る  
濡れて来ぬかと 気にかかる  
ああビルの辺の ティールーム  
雨も愛しや唄ってる 甘いブルース  
あなたと私の 合言葉  
「有楽町で逢いましょう」

心にしみる 雨の唄  
駅のホームも濡れたろう  
ああ小窓に煙る デパートよ  
今日の映画はロードショー 交す囁き  
あなたと私の 合言葉  
「有楽町で逢いましょう」

だから言ったじゃないの  
星はなんでも知っている  
泣かないで 夕焼けとんび  
嵐を呼ぶ男 からたち日記  
羽田発七時五十分 西銀座駅前

・・・昭和34年・・・

古城 三橋美智也

松風騒ぐ 丘の上  
古城よ 独り 何偲ぶ  
栄華の夢を 胸に追い  
ああ 仰げば侘びし 天守閣

いらかは青く こけむして  
古城よ 独り 何偲ぶ  
たたずみおれば 身にしみて  
ああ 空行く雁の 声悲し

お別れ公衆電話 黒い花びら  
黄色いさくらんぼ 浅草姉妹  
東京ナイト・クラブ  
南国土佐を後にして  
グッド・ナイト  
夜霧のエヤーターミナル

・・・昭和35年・・・

誰よりも君を愛す

マヒナ/松尾和子

誰にも言われず たがいに誓った  
かりそめの恋なら  
忘れもしようが  
ああ 夢ではない ただひとすじ  
誰よりも 誰よりも 君を愛す

愛した時から 苦しみがはじまる  
愛された時から  
別離が待っている  
ああ それでもなお 命かけて  
誰よりも 誰よりも 君を愛す

再会 お百度こいさん  
哀愁波止場 潮来花嫁さん  
月の法善寺横町 潮来笠  
達者でな ミヨちゃん

・・・昭和36年・・・

湖 愁 松島アキラ

悲しい恋の なきがらは  
そっと流そう 泣かないで  
かわいいあの娘よ さようなら  
たそがれせまる 湖の  
水に浮かべる 木の葉舟

ひとりの旅の 淋しさは  
知っていたのさ 初めから  
はぐれ小鳩か 白樺の  
こずえに一羽 ほろほろと  
泣いて涙で 誰を呼ぶ

北上夜曲 上を向いて歩こう  
銀座の恋の物語 はたちの詩集  
王将 恋しているんだもん  
北帰行 おひまなら来てね  
ソーラン渡り鳥

・・・昭和37年・・・

赤いハンカチ 石原裕次郎

アカシヤの 花の下で  
あの娘がそっと 顔を拭いた  
赤いハンカチよ  
怨みに濡れた 目がしらに  
それでも泪は こぼれて落ちた

アカシヤの 花も散って  
あの娘はどこか 倏い  
赤いハンカチよ  
背広の胸に この俺の  
ところに遺るよ 切ない影が

なみだ船 いつでも夢を  
江梨子 下町の太陽  
寒い朝 遠くへ行きたい  
島育ち 霧子のタンゴ

・・・昭和38年・・・

美しい十代 三田 明

白い野ばらを 捧げる僕に  
君の瞳が あかるく笑う  
いつもこころに 二人の胸に  
夢を飾ろう きれいな夢を  
美しい十代 ああ十代  
抱いて生きよう 幸福の花

昨日習った ノートを君に  
貸してあげよう やさしい君に  
つらい日もある 泣きたいことも  
あるさそれでも 励ましあつて  
美しい十代 ああ十代  
抱いて咲かそう 幸福の花

島のブルース 恋のバカンス  
見上げてごらん夜の星を  
高校三年生 こんにちは赤ちゃん  
東京五輪音頭 長崎の女  
明日はお立ちか 夕陽の丘

・・・昭和39年・・・

ああ上野駅 井沢八郎

どこかに故郷の 香りをのせて  
入る列車の なつかしさ  
上野は俺らの 心の駅だ  
くじけちゃならない 人生が  
あの日ここから 始まった

就職列車に ゆられて着いた  
遠いあの夜を 思い出す  
上野は俺らの 心の駅だ  
配達帰りの 自転車  
とめて聞ける 国なまり

東京の灯よいつまでも 皆の衆  
愛と死をみつめて 何も言わないで  
お座敷小唄 幸せなら手をたたこう  
アンコ椿は恋の花 涙を抱いた渡り鳥  
君だけを ウナ・セラ・ディ東京  
おんなの宿



# ふるさとのたたずまい・2

写真撮影：編集部 武捨 衛人



“真田氏本城跡”から  
真田町中心部を望む



“真田氏本城跡”



“廣山禪寺”（本原中原）



“御屋敷公園”



“石堂橋？”  
から岡保方面を望む



想い出のスポット  
“忠魂碑”（本原中原）



想い出のスポット  
“千古の滝”



ふるさとの初冬 “石堂橋？”  
から堤入谷を望む



# 益々躍進を続ける 真田不動産グループ

## 本社貳番館ビル竣工



貳番館

壹番館

WAKO真田本社ビル

### 壹番館

- 1F ●特選輸入洋品 WAKO ショールーム ☎03-3620-2411  
●総合不動産業 株式会社 真田不動産 ☎03-3620-2511
- 2F 貸事務所（歯科医院）
- 3F～6F IMPERIAL HORIUCHI（賃貸マンション25室所有）

### 貳番館

- 1F 店舗
- 2F～6F IMPERIAL HORIUCHI（賃貸マンション28室所有）



株式会社 真田不動産

代表取締役 堀内 政

〒120-0005 東京都足立区綾瀬6-30-8（WAKO真田ビル1階）

<http://www.sanada-fudosan.com>

自宅：足立区青井4-4-10 03-3840-3211

## 創業20周年特別記念企画

新発売

完成間近

土地付新築分譲住宅  
IMPERIAL青井

### 南西角地含む新築3棟

都心へのアクセス良好、  
ますます便利な街に—。  
「北千住」駅へ3分 「秋葉原」駅へ13分



南側6m(歩道付)公道に面する当社注文によるハイクレイド住宅。



3LDK ■土地面積/50.51㎡  
■建物面積/約85.09㎡

### 《充実の設備・仕様》

- ◆ベタ基礎・基礎/タタキ使用
- ◆浴室ベアガラス使用 ◆シャッター付
- ◆玄関収納・床下収納庫 ◆リビングニッチ付
- ◆サンウエーブ製システムキッチン
- ◆TV・浴室乾燥機付ユニットバス
- ◆ウォッシュレット2台 ◆TVインターホン
- ◆パリアフリー対応室内ドア ◆玄関廻り大理石貼
- ◆外壁豪華ボデータイル及びジョイント仕上

### 《今期販売実績》（平成17年11月現在）

- 新宿区喜久井町2丁目/土地
- 練馬区練馬5丁目/マンション
- 新宿百人町/戸山タワー
- 足立区 倉人3丁目/戸建
- 江東区海辺/S道4階建1棟
- 葛飾区東水元2/戸建
- 文京区小石川2丁目/新築
- 江戸川区北小岩6丁目/土地
- 板橋区宮本町3丁目/マンション
- 墨田区押上2丁目/戸建

〈販売価格〉 **3,550** (税込) 万円～

日本ダボス

平成17年12月25日発行

発行/東京真田町の会

会長 塩沢 和政

〒276-0046 千葉県八千代市大和田新田1074-37 TEL・FAX.047-450-3348

編集委員/武捨 衛人・柴田 小夜子・鈴木 邦子・堀内 幸・木南 和世

印刷/上田市・(有)アオヤギ印刷